

## ■2021 年度事業報告書<目次>

1. ボランティアコーディネーション事業		Page	5. 「企業市民活動推進センター」事業		Page
ボランティア相談とマッチング(V 活動希望者)		1	企業市民活動などの相談対応、コンサルティング		79
ケース共有会・ケース検討会		3	積水ハウスマッチングプログラム協働事務局		81
ICT ツールを活用した情報発信		5	「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラム事務局		83
多様な関係機関とのネットワーク構築		7	阪神高速道路 未来へのチャレンジプロジェクト		85
はじめてのボランティア説明会		9	タケダ NPO サポートプログラム(第 2 期)		87
多種多様なボランティアメニュー開拓		11	SAP ジャパン(株)との協働による社会的孤立状態になりやすい子どもたちへのIT支援事業の実施		89
社会課題を知るための基礎講座の実施		13	フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム		91
「ゆるボラ」(ゆるやかなボランティア)		15	うめきた朝ガク		93
ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力の向上		17	企業市民活動推進センター(CCC)運営委員会		95
災害ボランティア説明会		19	<b>6. 情報提供・出版・市民シンクタンク事業</b>		
災害ボランティア入門セミナー		21	市民活動総合情報誌「ウオロ」		97
将来の地域共生社会を担う人材の育成		23	出版		99
「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会		25	ボランティア・市民活動ライブラリーの管理運営		101
ボランティアスタイル		27	真如苑 Shinjo プロジェクト助成事務局		103
KV ネット		29	「日本ボランティア・NPO・市民活動年表」増補・改定版編集・発行事業		105
インクルーシブボランティアの推進		31	ボランタリズム研究所・セクター研究会「社会的孤立」		107
ボランティア保険の受付事務		33	ボランタリズム研究所・調査セミナー		109
第 46 期ボランティアコーディネーター養成講座(新南向け)」の企画・実施		35	ボランタリズム研究所運営委員会		111
ボランティアコーディネーション力 3 級検定・直前研修		37	“裁判員 ACT”裁判への市民参加を進める事業		113
<b>2. 市民力向上(市民学習・研修)事業</b>			<b>7. 国内外のネットワーク推進事業</b>		
CANVAS よるがく		39	「ボランタリズム推進団体会議(民ボラ)」への参画		115
次世代ソーシャル・イノベーター 育成プログラム (NextSIP)		41	「関西 NPO 支援センターネットワーク(KNN)」「近畿圏 NPO 支援センター連絡会議」「関西 NGO 協議会」		117
講師派遣		43	近畿ろうきんパートナーシップ制度		119
インターンシップ・職場体験の受け入れ		45	「震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)」		121
<b>3. NPO運営支援・基盤整備事業</b>			「3.11 from KANSAI 実行委員会」への参画と震災復興応援イベントの企画実施		123
NPO 運営などの相談対応&コンサルティング		47	「おおさか災害支援ネットワーク(OSN)」の定例会の企画実施		125
はじめての NPO 説明会		49	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会(愛称「OCNoMi おおさか」)		127
NPO 関連セミナー		51	地域こども支援団体連絡会		129
メルマガ「NPO ぼいす」の発行		53	<b>8. 人的な事業推進体制の充実</b>		
パートナー登録制度の運営		55	個人会員・個人賛助会員		131
他団体への寄付・寄贈		57	会員誌「CANVAS NEWS」		133
他団体の推薦		59	団体賛助会員・非営利賛助会員		135
他団体への後援名義・運営協力		61	アソシエーター研修およびアソシエーター活性化のための企画実施		137
場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援		63	寄付(一般、事業、災害)		139
市民活動スクエア「CANVAS谷町」		65	ホームページリニューアル 2021		141
魅力ある「CANVAS 谷町」づくり事業		67	協会BCP(事業継続計画)		143
ボランティア・NPO 推進センター運営委員会		69	常任運営委員会		145
<b>4. 災害・復興支援、防災事業</b>			役員会等(理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事会)		147
災害時の運営支援者・運営者を派遣(災害発生時)		71			
災害時の要支援者をテーマとした体験型プログラム(災害時のスペシャルニーズ支援事業の後継)		73			
広域避難者の支援活動		75			
災害支援委員会		77			

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティア相談とマッチング（V活動希望者）		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	「ボランティア活動をしたい」という人に活動の場を紹介することで、意欲を持つ市民の社会参加を促進するとともに、ボランティアに協働を求める人や組織と市民とのコーディネーションを進める。		
事業概要	面談（オンライン含む）、電話、メール等を使って、ボランティア活動をしたい、ボランティアの応援が欲しい等の相談に対して、個別での相談・マッチングを実施する。		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者が、ボランティア活動に対する視野を広げる。</li> <li>・相談者が、ボランティア活動への参加意欲を向上させる。</li> <li>・相談者が、やってみたいボランティア活動を見つけ、活動に参加する。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者が、紹介した活動に実際に参加したのか、把握できていない。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談内容からニーズを把握し、他の事業の展開に積極的に活用していきたい。</li> <li>・相談者が、紹介した活動に実際に参加したのか、把握するための方策を模索していきたい。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティア相談とマッチング（V活動希望者）
-----	------------------------

■2021年度の計画

事業計画	面談（オンライン含む）、電話、メール等を使って、ボランティア活動希望者の相談に随時対応する。
アウトプット 目標（指標含む）	相談件数：年間 500件（応援求む相談等含む） ※新型コロナウイルス感染症による影響を鑑み、2019年度の50%で試算。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>相談件数：年間 559件（応援求む相談等含む）、チャットボットによる相談件数 566件</p> <p>相談内容 内訳：ボランティア活動希望289件、応援を求める38件、その他232件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ拡大の影響で、大幅な相談件数の減少、ボランティアの応援を求めることが明らかに減った状況が続いたが、年度末にかけて、活動相談、受け入れ相談ともに少しずつ戻ってきた。</li> <li>・オンラインやチャットによる相談ツールを導入し、対応件数も伸びてきている（チャットボットによる相談件数 566件）。</li> <li>・20～30歳代が最も多く、勤労者が38%を占めている。「空いている時間を有効に使い、何か社会に貢献できることがしたい」「学校や職場以外の人と交流したい、つながりたい」という人が多くいた。</li> <li>・活動希望相談289件のうち、約5%が具体的に団体につながり、約70%には活動情報を提供した。</li> <li>・「応援を求む」相談に関しては、今期もボランティアの調整に至るよりも、公的な相談窓口や専門機関を紹介するケースが多かった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の収束が見通せない中で、人と接触しなくてもできる活動などの多様なボランティアプログラムの開発は引き続き求められている状況。</li> <li>・相談内容からニーズを把握し、他の事業の展開に積極的に活用していきたい。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ケース共有会・ケース検討会		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	職員間で対応内容について共有を行い、専門家のスーパーバイズを受けることで、相談対応力および対応の質の向上を図る。		
事業概要	ケース共有会) 相談対応職員間で対応内容について共有を行い、相談対応力および対応の質の向上を図る。 ケース検討会) 専門家のスーパーバイズを受けることで、相談対応力および対応の質の向上を図る。		
事業の対象	コーディネーション事業相談対応職員		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談対応職員の相談対応力が向上する。</li> <li>・相談対応職員の相談対応内容の質が向上する。</li> <li>・相談対応職員間の対応内容の質の底上げを図る。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務経験の長い職員の持つノウハウ・情報が、ほかの相談対応職員に共有されていない。</li> <li>・対応する職員の経験値により、相談対応の質が異なる場合がある。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務経験の長い職員の持つノウハウ・情報が、ほかの相談対応職員に共有される機会を定期的に設ける。</li> <li>・対応する職員の経験値によらず、相談対応の質が担保される。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ケース共有会・ケース検討会
-----	---------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<p>ケース共有会) 相談対応職員間で対応内容について共有を行い、相談対応力および対応の質の向上を図る。</p> <p>ケース検討会) 専門家のスーパーバイズを受けることで、相談対応力および対応の質の向上を図る。</p>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース共有会の開催回数：年間 45回</li> <li>・ケース検討会の開催回数：年間 6回</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース共有会の開催回数：47回</li> <li>・ケース検討会の開催回数：6回</li> <li>・ケース共有会にて各ケースの対応内容について相談担当職員間で週1回のペースで共有を行い、ケース検討会にて専門家のスーパーバイズを受ける機会を2か月に1回定例で設けた。</li> <li>・ケース共有会およびケース検討会の開催により、困難ケースについてVCO間で知見を共有し、専門家からの助言を得て対応を検討できた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、対応の難しいケースについて相談担当職員間で知見やノウハウを共有し（週1回）、また専門家からの助言を受ける（2か月に1回）ことで、相談対応力および対応の質の向上を図る。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ICTツールを活用した情報発信		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	各SNS媒体の特性、ユーザーのニーズに応じた最適な媒体を使い分け、ボランティアに関する情報の発信を行う。		
事業概要	<p>・ボランティア情報を要約し、お勧めコメント及び詳細ページURLにリンクできるように編集して発信する。また、活動時のポイントを発信し、NPOのツイートをリツイートする。</p> <p>・ボランティア活動に関心がある人、始めてみたい人が気軽に視聴できるボランティア入門動画（短編）を制作し申込制で随時視聴できるようにする。</p> <p>・ボランティア活動のイメージが持てるよう、ボランティア活動の様子を撮影したボランティア活動紹介動画を制作する。</p> <p>※効果的な媒体や方法については、事業を進めながら検討し、改良する。</p>		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報にアクセスした人の社会課題への関心が高まる。</li> <li>・情報にアクセスした人のボランティアや社会貢献に対するイメージや視点がより広がり、身近に感じる人が増える。</li> <li>・情報にアクセスした人の「自分も活動してみたい」という意欲が高まる。</li> <li>・情報にアクセスした人が、インターネット等を活用し具体的なボランティア活動を検索する。</li> <li>・情報にアクセスした人が、地域や社会の課題に関心をもち、新聞やインターネットニュースに目が留まるようになる。</li> <li>・情報にアクセスした人が、ボランティア説明会や体験プログラム、ボランティアサークルに参加する。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
ボランティア活動希望者が、ボランティア活動に関する情報に適切にアクセスできていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
ボランティア活動希望者が、ボランティア活動に関する情報に適切にアクセスできるよう、ICTを活用した媒体を工夫し積極的に情報発信を行っていく。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ICTツールを活用した情報発信
-----	-----------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア情報を要約し、お勧めコメント及び詳細ページURLにリンクできるように編集して発信する。また、活動時のポイントを発信し、NPOのツイートをリツイートする。</li> <li>・ボランティア活動に関心がある人、始めてみたい人が気軽に視聴できるボランティア入門動画（短編）を制作し、視聴できるようにする。</li> <li>・ボランティア活動のイメージが持てるよう、ボランティア活動の様子を撮影したボランティア活動紹介動画を制作する。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<p>〔Twitter〕情報発信：200件（ボランティア情報100件を含む）、フォロワー数：1,000</p> <p>〔動画配信〕ボランティア入門動画 … 制作：1本、 視聴回数：300回 ボランティア活動紹介動画 … 制作：6本、 視聴回数：各150回</p>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>〔Twitter〕414ツイート(うちボランティア情報は191件)、フォロワー数1,600アカウント</p> <p>〔動画配信〕作成に当たって主対象とする現役の高校生や大学生の若者、働き盛りで忙しい20～30代の勤労者との意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア入門動画…制作4本（ボランティアって何？／多彩なボランティア活動／自分の活動スタイルを発見！／活動前にちょっと確認！）、視聴回数4本合計714回</li> <li>・ボランティア活動紹介動画…制作6本。クリーンハイキング236回／里浜クリーン活動183回／広報誌発送活動171回／痴漢抑止バッジ活動259回／写真洗浄活動193回／デュアスロン大会200回</li> <li>・視聴者の評価・意識変容等（アンケート回答）</li> </ul> <p>&lt;入門動画：回答10名、5点満点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加意欲が高まったか：平均4.8点／理解が深まったか：平均5点／具体的なボランティア活動を調べてみたいか。：平均5点</li> </ul> <p>&lt;紹介動画:12名、5点満点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加意欲が高まったか：平均4.6点／身近に感じるようになったか：平均4.9点／社</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>緊急事態宣言、まん延防止等重点措置期間においてボランティアを受け入れしている団体や施設は限られており、そうした中で量と質を意識した情報発信には苦慮する点が多かった。今後の継続した検討課題であろう。加えて、情報受信者にアクションを起こさせるための工夫も検討点である。</p>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	多様な関係機関とのネットワーク構築		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター／コーディネーション部会		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	よりきめ細やかな相談対応や適切なボランティアコーディネーションが行えるよう、また、関係機関と平常時から災害支援、防災に関する課題を共有し、実災害時に各区に設置される災害ボランティアセンターの運営支援や被災地域のスムーズな復旧・復興に向けた活動を協働で行えるよう、市内の社会福祉協議会やテーマ型NPO、専門機関等のコーディネーター同士が情報共有や日常業務での連携ができるネットワークを構築する。		
事業概要	<p>①大阪市内の市・区社協、専門機関、テーマ型NPOに呼びかけ、情報共有会議を開催する。</p> <p>(内容) ・現場の対象者が抱えている課題の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア募集状況やコーディネーションの課題</li> <li>・災害時に備えた取り組みの共有</li> <li>・災害時のボランティア支援体制についての情報共有</li> </ul> <p>②情報共有会議をもとに、個別に連携・協働のマッチングを行う</p>		
事業の対象	大阪市内の市・区社協(25団体)、専門機関、テーマ型NPOに呼びかけ、年に2回(2021年度は1回)等		

事業のアウトカム目標(実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体・機関同士がそれぞれの機能や役割を理解し合うことができる。</li> <li>・参加団体・機関でボランティアの基礎知識や市民参加の重要性への理解が深まる。</li> <li>・情報共有会議参加団体・機関が実際に現場のボランティアコーディネーションで連携できるようになる。</li> <li>・情報共有会議参加団体・機関と当法人の協働で、新たなボランティア活動メニューの開発を行えるようになる。</li> <li>・困りごとの相談について、事業開始前と比べ、スムーズに支援のつなぎ先を見つけることができるようになる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ(目的の達成を阻害しているのはなにか?)
協会も含む関係団体同士が、担当者レベルで顔の見える関係を築けていない 社協とNPOとの関係づくりが特に課題
中期的な目標(3ヶ年くらいを見据えた)目標(具体的な数字で示す)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークへの参加団体・機関 40 団体・機関</li> <li>・情報共有会議回数5回(1年目1回、2年目2回、3年目2回)参加者各回20人、のべ100人</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	多様な関係機関とのネットワーク構築
-----	-------------------

■2021年度の計画

事業計画	大阪市内の社会福祉協議会やテーマ型NPO、専門機関等のコーディネーター同士がお互いの取り組みを理解し、日頃から連携がしやすくなるよう、情報共有会議を行う。また、各機関の現状把握と現場担当者同士の関係構築のため、ヒアリングを実施する。
アウトプット 目標(指標含む)	〔ヒアリングの実施〕 市・区社協（25団体）、専門機関（5機関）、テーマ型NPO（10団体） 〔情報共有会議の開催〕 開催：1回、 参加数：20団体・機関

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	各区社会福祉協議会へのヒアリングをきっかけとして、今後、地元での関係機関との連携の可能性や課題がクリアになった。パートナー登録団体との連携をコーディネートできたり、KVネットへの登録団体が増えるといった成果があった。
次年度への引継ぎ 検討課題	2022年度はNPOや専門機関へのヒアリングを進め、さらに多様な主体の連携をつなぐ取り組みを進めたい。また、情報共有会議では、災害時に向けた平時からの顔の見える関係づくりのきっかけをつくることに努めたい。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	はじめてのボランティア説明会		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	ボランティアに関心があるがどのように始めたらよいかわからない人や、まずは学びたいという人が、自分に合った活動を見つけるきっかけをつくり、参加のすそ野を広げる。		
事業概要	はじめてボランティア活動をする人を対象とした説明会を開催し、ボランティア活動の基礎知識や探し方のヒント等の解説、参加者それぞれのニーズに応じた活動先の紹介を行う。		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のボランティアや社会貢献に対するイメージや視点がより広がる。</li> <li>・参加者のボランティア活動に参加してみたいという意欲が高まる。</li> <li>・参加者がボランティア体験プログラムやボランティアサークルに参加する。</li> <li>・参加者がボランティアを自分で見つけて参加するようになる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が説明会に参加して、ボランティアや社会貢献に対するイメージや視点は広がり、参加の意欲は高まるが、参加したい活動が見つかった割合は66%にとどまっている。</li> <li>・参加者が説明会参加後、実際の活動に踏み出すのに、自分で活動先に連絡して参加を申し込むプロセス等が障壁となり、実際の活動につながらずに終わるケースも多いと思われる。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間参加者への後追いアンケートを年1回実施する。その結果をもとに、説明会后により多くの参加者がボランティア活動に踏み出すための支援方法を検討する。</li> <li>・他事業（ゆるボラ等）とも連携して、効果的に進める。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	はじめてのボランティア説明会
-----	----------------

■2021年度の計画

事業計画	1回90分程度、日中・夜間・週末等に分けて開催。 対象を絞らない説明会に加え、勤労者や学生対象、リタイア前後の層などのそれぞれの対象を分けた開催についても検討する。
アウトプット 目標(指標含む)	・開催回数：年間 36回（月3回） ・参加者数：年間 150人

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催：37回(月3回、出張開催1回)、</li> <li>・参加者：169名(出席108名、欠席19名、出張開催42名)</li> <li>・1月からは平日午前中の対面での説明会（オンラインに不慣れなシニア層が主対象）も実施したが、シニア層の参加はなかった。</li> <li>・説明会直後に実施したアンケート(回答率：71%)で、参加者からの評価・意識変容等は以下のとおり。・満足度：平均97点/ボランティアに参加する意欲：説明会受講前 平均73% → 説明会受講後 平均90%/ボランティアに対する理解度：平均3.4(1低い~4高い)/参加したい活動が見つかった割合：66%</li> <li>・今年度は初めて、年度末に年間参加者に対して説明会後の状況についてアンケートを実施し、説明会参加者の半数以上が実際に活動を開始している実態をつかむことができました。一度参加した人からは、参加することによって活動意欲が高まるとの回答も複数あった。また、説明会に参加した後の日々の暮らしの中での意識や行動の変化については、半数以上が「テレビニュースやインターネットニュースなどで社会課題に関する記事に目がとまるようになった」、4割以上が「自分の暮らしている地域やご近所に目を向けるようになった」「気になる社会課題が増えた」、3割以上が「新たな人とのつながりができた」と回答し、本説明会がきっかけとなって、社会・地域への関心が高まり、社会参加への後押しとなっていることが推察できる結果となった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの状況を見ながら、対面・オンラインを使い分け参加を促す。</li> <li>・今年度は、対象者別の回(学生対象)を実施し、一定のニーズがあることがつかめた。次年度もニーズの高い時期(長期休暇期間、新学期開始時等)に学生対象の説明会を実施していきたい。</li> <li>・学生だけでなく、65歳以上に限定したシニア層対象の回を平日の午前中などに対面で実施したい。シニア層に向けた広報も工夫していく。</li> <li>・次年度も引き続き、ボランティアと共に開催する。他の事業(多種多様な活動メニューの開拓、ゆるやかなボランティア等)とも連携させ、より多くの参加者が実際の活動につながるよう、内容を工夫していく。</li> <li>・さらに多くの活動希望者に周知するため、広報について再検討する。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	多種多様なボランティアメニュー開拓		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	時間の制約がある、コミュニケーションが苦手等、ボランティア活動を希望する人々の多様なニーズに応じた多種多様なメニューを開拓し、誰でも気軽に活動できる環境をつくることで、ボランティア参加のすそ野を広げる。		
事業概要	ボランティア募集团体にアンケートやヒアリングを実施し、多種多様なボランティアの受け入れ可否や活動内容等を聞き取り、活動内容をメニュー化する。新たに開発したい思いがある団体には、プログラム開発支援を行う。 ※初めて活動する人や、活動を始めるのに制約のある人も参加しやすいプログラムとなるよう留意する。		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
・多様なニーズを持つボランティア活動希望者が、ニーズに合ったボランティア活動プログラムを見つけ、活動に参加できる。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
・多様なニーズを持つボランティア活動希望者が、ニーズに合ったボランティア活動プログラムを見つられないため、活動に参加できていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
・既存の受け入れ先に呼びかけて、多様な人の受け入れが可能なボランティア活動メニューを100件（2021年度20件、2022年度30件、2023年度50件）を開拓し、ボランティア活動希望者に紹介できる活動メニューを多種多様にする。 ・多様なニーズを持つボランティア活動希望者に対して、紹介できるボランティア活動メニューが代表的な活動分野で1つ以上開拓する。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	多種多様なボランティアメニュー開拓
-----	-------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・KVネット登録団体（約700団体）に多様なボランティアプログラムに関するアンケートを実施する。</li> <li>・アンケート回答をもとに団体にヒアリングを実施し、多種多様なボランティアの受け入れ可否や活動内容等について聞き取り、活動内容をメニュー化する。</li> <li>・新たに開発したい思いがある団体には、プログラム開発支援を行う。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニュー開拓 年 20件</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年6月～8月にかけて、多様な活動メニュー開拓の可能性を探るため、KVネット（自主事業）登録団体（691団体）を対象に、ボランティア活動の新たなメニュー「誰もが参加できるボランティア活動」（※）に関するアンケートを実施した。アンケートには82団体から回答があり（回答率：約12%）、うち、4団体を除く78団体からは新たな活動メニューに該当する活動があるとの回答を得た。</li> <li>（※）アンケートにより回答を得た新たな活動メニューの一例： 在宅やスキマ時間でできるボランティア、事務作業のボランティア、オンライン支援ボランティア、コミュニケーションが苦手な人のためのボランティア、日本語が苦手な人でもできるボランティア 等</li> <li>・アンケート回答のあった団体から大阪市内に拠点を持つ26団体を対象を絞り、アンケート回答をもとに精査して「多種多様な活動メニュー」20件の一覧を作成した。</li> <li>・一覧はボランティアコーディネーターで共有し、相談対応時に相談者を活動につなげるツールとして積極的に活用していく。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降は、より活動の多様性を持たせられるよう、再度、ボランティア・市民活動団体にアンケートを実施し、回答団体にさらにヒアリングを行い、新たな活動メニューを開拓していく。また、開拓したメニュー一覧を活用し、活動希望者を積極的に活動につなげていく。</li> <li>・次年度以降、内容が明確な活動メニューに関しては、ボランティア募集情報サイト「KVネット」（独自事業）にもボランティア募集情報を掲載し、コーディネーターに相談せずとも、活動希望者がWEBから検索して活動参加の申込ができるような道筋も用意していきたい。</li> <li>・今後は市・区社協、国際交流センター等市内中間支援団体の登録団体への呼びかけも行い、多様なメニューの開拓につなげる。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	社会課題を知るための基礎講座の実施		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	活動希望者の活動への意欲の向上、潜在層の活動に向けた後押しやきっかけづくりのために、社会課題を知るための基礎講座を実施する。活動に一步踏み出すまでには至らないが講座参加なら可能という人を対象に、今、身近で起こっている社会の課題に気づき、その課題の背景に思いを馳せ、「ほっとけない」気持ちを育むきっかけを提供することで、社会の課題への見方を変え、自分ごととして何かできること（ボランティア活動）に関わるハードルを下げることを目的とする。		
事業概要	テーマに取り組む市民活動の活動者を講師として、活動の社会的な背景や意義、ボランティアが関わることで活動がどのように広がりを持つのか等の1時間半程度のセミナーを実施する。また、参加者が対等な立場での対話を通して学び合う機会をつくる。参加者に対しては、基礎講座と連動したテーマのボランティア活動を具体的に紹介し、意欲の高まりが冷めないうちに、実際の体験活動へ一步踏み出す流れをつくる。		
事業の対象	ボランティア活動に関心はあるが活動に踏み出せない人／活動に一步踏み出すまでには至らないが講座参加なら可能という人／これからボランティア活動を始めたい人／テーマに関心のある人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が自分の関心事について言語化し、より意識化・明確化・深化する。</li> <li>・参加者が社会課題についてより自分ごととして捉え、背景に思いを馳せる。</li> <li>・参加者に自分が関われることできることがあるかもしれないという気持ちが芽生える。</li> <li>・参加者が自分が関われることできることを知り、関わる意義を知る。</li> <li>・参加者が具体的に活動するための情報を得て次の行動（ボランティア活動）を起こす。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に関心はあるが、未知の世界であるため、活動に踏み出すことをためらう人が一定数存在する。</li> <li>・ボランティア活動やその背景となっている社会課題について、入門的に触れることのできる場・機会が少なく、入り口がわかりにくい。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎講座を6件（2021年度2件、2022年度2件、2023年度2件）開発し、6回（1年目2回、2年目2回、3年目2回）実施する。各回10人、計60人の参加をめざす。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	社会課題を知るための基礎講座の実施
-----	-------------------

■2021年度の計画

事業計画	・ボランティアとともに企画を立ち上げ、年度内に2回実施する。
アウトプット 目標(指標含む)	・基礎講座の開発：年間2件 ・講座の実施：年間 2回、参加者数：のべ20人 (@10人×2回)

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>開発：2講座、開催：年間 計2回(各講座1回)、参加者：第1回16人、第2回13人(のべ 29人)</p> <p>講座内容：【第1回】10/30『90分 de こそだてREAL』、参加人数：16人、スピーカー：辻由起子さん（大阪府子ども家庭サポーター〈大阪府子ども虐待防止アドバイザー〉）</p> <p>【第2回】1/30『90分 de しょうがい者ひとりぐらしREAL』 参加人数：13人、スピーカー：山根大知さん（障害当事者）、椎名保友さん（NPO法人日常生活ネットワーク パーティ・パーティ）</p> <p>・福祉的な専門性を有するボランティアの参画と、社会課題の当事者を交えて話をする事で、社会課題が自分と地続きであることを実感し、自分にも何か担える役割があると意識するきっかけとなる講座内容となった。講座当日もボランティアとともに講座運営を行った。</p> <p>・講座後に実施したアンケート回答(回答率：平均62%)による、参加者の評価・意識変容等は次の通り。満足度(100点満点中)：平均91点(第1回98点、第2回84点)/テーマとなる社会課題への理解度：平均3.8(1低い~4高い)/自分にも何かできるかもという意欲：講座受講前 平均75% → 講座受講後 平均91%/ボランティアに参加する意欲：講座受講前 平均73% → 講座受講後 平均92%/講座後にやってみたいこと(複数回答)：「ボランティア活動に参加」「この講座で得た気づきを知人に話す」各47%、「自分ができることの情報収集」27%、「この講座やテーマについてSNSやブログで発信」「関連情報の検索」各20%、「ニュース等を注意して見る」7% 等)</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>・オンラインを活用することで、自宅から外出しにくい人(障がい当事者、持病のある人)の講座参加が可能となり、スピーカーや他の参加者と有意義な交流が図れたことは収穫だった。</p> <p>・結果として、今年度の参加者の多くがすでにボランティア活動経験者であったため、次年度は、よりこれから活動を始めたい人向けのテーマ・内容となるよう検討していく。</p>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	「ゆるボラ」（ゆるやかなボランティア）		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	ボランティア活動や社会貢献活動等に興味・関心がある人が、活動に参加するハードルを下げ、安心して活動ができるよう、ゆるやかにつながるサークル（コミュニティ）を立ち上げ、運営する。		
事業概要	ボランティア活動希望者や潜在層を中心に、サークルに誘い、メンバー登録を促す。 月1回程度のペースで、ボランティア活動体験を実施し、メンバーに参加を呼びかけることで、ボランティア活動への参加を支援する。活動後にもコミュニケーションをとり、メンバー間のゆるやかなネットワークづくりを図る。		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動希望者や潜在層が、このサークルをきっかけとして活動を体験する。</li> <li>・ボランティア活動希望者や潜在層が、自分からボランティア活動情報を探す。</li> <li>・ボランティア活動希望者や潜在層が、自らボランティア活動に参加する。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動希望者や潜在層の多くが、ボランティア活動に一步踏み出すことができていない。一步踏み出すきっかけを見つけられずにいる。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度まで、登録者数120人以上を維持する。</li> <li>・2023年度までに、サークルメンバーでボランティア活動（ボランティア体験会）を計30回（1年目の下半期から月1回程度）実施する。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	「ゆるボラ」（ゆるやかなボランティア）
-----	---------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動希望者や潜在層を中心に、サークルに誘い、メンバー登録を促す。</li> <li>・10月以降、月1回程度のペースで、ボランティア活動体験を実施し、メンバーに参加を呼びかけることで、ボランティア活動への参加を支援する。</li> <li>・活動後にもコミュニケーションをとり、メンバー間のゆるやかなネットワークづくりを図る。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サークル登録者数：20人</li> <li>・活動体験：年間 6回（下半期から月1回）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>登録者数：115人（2022年3月末時点） 活動体験：年間 7回（参加者数はのべ13人） 1/15(土) 山王こどもセンター（参加1人）／1/23(日) 痴漢防止バッジ パッケージ作業（参加1人）／1/30(日) 写真洗浄@あらいぐま大阪（参加3人） ／2/ 6(日) OSAKA デュアスロン2022 IN 万博記念公園（参加1人） ／2/12(土) Onlineタンゴセラピー（参加1人）／2/19(土) 夜まわり活動（参加3人） ／2/27(日) 大阪マラソン2022（参加3人）／交流会：1回（参加2人） ／3/12(日) 第1回メンバー交流会（対面参加0人／オンライン参加2人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は、登録者数目標20名としていたが、予想を大きく上回り、初年度で3ヶ年の目標人数100名を超す115名のメンバー登録があった。</li> <li>・LINE公式アカウントを活用し、活動体験会やメンバー交流会を開催し、ゆるやかにつながるコミュニティのベースをつくることができた。</li> <li>・参加者の中には、「はじめてのボランティア説明会」に参加したが、その後どう活動していいかわからなかった人もおり、当初の目的である「ボランティア活動をやってみたかったが一步踏み出せなかった人」を活動に後押しする役割を担うことができていると考えられる。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録者のニーズを踏まえた体験会等の企画を行う。</li> <li>・「参加を通してコミュニティが形成される」促しができるような仕掛けを考える。例えば、同じテーマで定期的に集まり話し合いをしていくことでコミュニティづくりを進めるようなプログラムも検討する。</li> <li>・他の事業(はじめてのボランティア説明会、多種多様な活動メニューの開拓、社会課題を知るための基礎講座等)とも関連させながら運営を行い、相乗効果が得られるよう事業を進めていく。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力の向上		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPO・施設・地域組織等のコーディネーター（リーダー層）を対象に、ボランティアコーディネーション力向上研修・講座を実施する。		
事業概要	団体の活動にとってボランティアが果たす役割・意義を再確認すると共に、多種多様なニーズを持ったボランティアを受け入れ、その力を団体内で生かすために必要なボランティアコーディネーションのスキルやノウハウを学ぶ講座を開催する。ボランティアの受け入れに関する課題や悩みを共有し、その解決法をともに考える。		
事業の対象	NPO・施設・地域組織等のコーディネーター（リーダー層）		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
講座参加者が、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人を受け入れる意義を理解し、多様な活動者を受け入れたいと思えるようになる。</li> <li>・現場で受け入れに困った際に、講座で得たノウハウを使い解決しようと思えるようになる。</li> <li>・多様な人を受け入れられる土壌づくりに取り組む。</li> </ul> 多様なニーズを持つボランティア活動者にとって、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズを満たし生き生きと活動できる受け入れ先が増える。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
多様なニーズを持つボランティア活動者の受け入れについて、対応がわからないため受け入れを制限したり、制限のある受け入れをしたりすることがあり、受け入れ側・活動者の双方が満足し、納得できる活動の場が作り出されていない場面も多い。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
・NPO・施設・地域組織などのコーディネーター（リーダー層）を対象とした、多種多様な人の受け入れを可能にする環境づくりのためのボランティアコーディネーション力向上研修を2021年度～2023年度の3か年で年1回、計3回実施、各回30人のべ90人の参加をめざす。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティア受入側のボランティアコーディネーション力の向上
-----	-------------------------------

■2021年度の計画

事業計画	NPO・施設・地域組織等のコーディネーター（リーダー層）を対象に、ボランティアコーディネーション力向上研修・講座を実施する。
アウトプット 目標(指標含む)	・開催：年間 1回 ・参加者：30名

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>開催：年間1回、参加者：9人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、テーマを「学生ボランティアの受け入れ」と設定し、大阪府立大学ボランティア・市民活動センター「V-station」の協力も得ながら、大学生ボランティアの力を生かすために受け入れ団体側に必要なボランティアコーディネーションのヒントを得るための講座を1回実施した。</li> <li>・話題提供者として大阪府立大学ボランティア・市民活動センターV-stationから7人の学生スタッフが参加した。学生ボランティアの率直な思いを聞くことができ、貴重な機会となった。</li> <li>・講座後に実施したアンケート回答(回答率：67%)による、参加者からの評価・意識変容等は以下のとおり(アンケート各該当項目回答者数で集計)。 -満足度(100点満点中)：平均80点 -記述内容の抜粋：学生ボランティアと持続的な関係を築いて活動を継続できる環境づくりについて大切だと思うことという問いに対して、「参加する意味、ボランティア活動を通して何かをしたい、何かを得たいと言う学生の気持ちを大事にしていきたい。一人の人間として大切に思うこと。役割を感じてもらおうようにする」、「ボランティアから見て団体や所属する人が魅力ある存在であること。学生というカテゴリーではなく個人として接すること」、「対等・互惠・共愉」等の回答があった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、計画的に広報を実施し、より多くのボランティア受け入れ側のコーディネーター(リーダー層)に情報を届け、参加につなげたい。</li> <li>・次年度は、今年度参加者のアンケート回答なども参考にして企画を立案していく。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	災害ボランティア説明会		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター／災害支援委員会		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	災害ボランティアに関心があるが、アクションにつながっていない人を中心に、被災地に行く前に、災害ボランティアの基礎知識や活動内容などを学び、知ることができる機会を提供する。		
事業概要	災害支援に関心のある層を対象に、災害に備えた準備や実災害時におけるボランティア活動について説明会を開催する。		
事業の対象	災害ボランティア活動に関心のある人 これから災害ボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<p>■意識変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の災害ボランティアへのイメージがより明確になる。</li> <li>参加者の災害ボランティア活動への参加意欲が高まる。</li> </ul> <p>■行動変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者がより実践的な「災害ボランティア入門セミナー」に参加する。</li> <li>参加者が被災地支援ボランティア活動に参加するようになる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<p>平時から取り組める活動にどうつなげられるかに工夫が必要となる。</p>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会を年3回、計9回開催、のべ90人が参加</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	災害ボランティア説明会
-----	-------------

■2021年度の計画

事業計画	1回90分程度。災害ボランティアに関心がある層などが見つけられるように広報含めた開催を検討する。
アウトプット 目標(指標含む)	開催回数：年間 2回 参加者数：年間 20名

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	第1回は7月25日（土）10時30分～12時に開催し、18名の参加があった。第2回目は12月18日（土）13時30～15時に開催し、9名の参加があった。講師はともに災害支援委員会のボランティアスタッフである森本聡さん、紺屋仁志さんが担当し、災害ボランティアの種類や活動内容、必要な準備などについて伝えた。2回とも、ボランティア・NPO推進センターと災害支援委員会が連携して事業運営にあたることができた。参加者アンケートでは、「災害ボランティア」の基礎的な内容が理解できたというコメントが聞かれたが、中には自助や避難など、参加者の関心が幅広いことがわかった。
次年度への引継ぎ 検討課題	大阪市の委託事業であることから、大阪市民の参加率が上がるよう、地元社協と連携したい。また、対象者やレベル設定、エリアなどを絞り込んで開催していきたい。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	災害ボランティア入門セミナー		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター／災害支援委員会		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	災害ボランティア活動をやってみたい人を対象に、現地に行くのに必要な準備や安全対策、被災地での具体的な場面におけるボランティア活動について、講義とワークショップで学ぶ機会を提供する。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水害」「台風」「地震」等、災害の種類によって異なるボランティア活動のポイントや必要な準備を知る。</li> <li>・平時から要配慮者等を支えている団体は災害時にはどのような状況に置かれるのか、要配慮者を応援するためにボランティアができることはなにか、ボランティアが活躍するためにはどのような備えや仕組みが必要か、などの講義とワークショップを行う。</li> <li>・災害時における情報の受発信について、ICTツールの活用なども交えて講義とワークショップを行う。</li> <li>・災害ボランティアセンター運営を支えるボランティアのための講義とワークショップを行う。</li> </ul>		
事業の対象	テーマに関心のある市民		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に「何かしたい」が「情報待ち」といった受け身の姿勢から、「よく知りたい」「協力したい」という主体的な姿勢に変わる。</li> <li>・参加者の災害ボランティア活動への参加意欲が高まる。</li> </ul> <p>■行動変容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が被災地での災害ボランティア活動に参加するようになる。</li> <li>・災害が起こった際には、参加者がセミナーでの知見を生かして地域の活動に参加するようになる。</li> <li>・参加者が当法人所属の災害ボランティアチームまたは災害ボランティア団体に参加するようになる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
平時から取り組める活動にどうつなげられるかに工夫が必要となる。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
セミナーを年2回、計6回開催、のべ180人が受講。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	災害ボランティア入門セミナー
-----	----------------

■ 2021年度の計画

事業計画	セミナーを年1回（1回30人目標）
アウトプット 目標(指標含む)	開催：年間 1回、 参加者：30名

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	2022年1月15日（土）13時30分～15時30分に「災害ボランティア入門セミナー」を開催し、41名の参加があった。講師に災害ボランティアの中村伸一郎さん、大阪市社会福祉協議会の阪井誠一さんを迎え、災害ボランティアセンターのしくみや災害ボランティアの活動時に大事にしたいポイントについて学んだ。アンケートでは、災害ボランティアの実践者と、受け入れる立場の社協の両方の話が聴けたことで理解が深まったという声が多かった。
次年度への引継ぎ 検討課題	説明会同様、大阪市民の参加をさらに増やしていくことが必要。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	将来の地域共生社会を担う人材の育成		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	大阪市内在学の学生（主に中学・高校生）が、自分自身も地域共生社会の住民のひとりとして支え合うことの大切さを理解することを目的として、大学生の参画を得ながら、訪問授業、様々な違いを持つ人と一緒に取り組める福祉・社会貢献活動等のプログラムを提供する。		
事業概要	①市内の中学校を訪問し、総合的な学習の時間等を活用して、地域共生社会の住民のひとりとして支え合うことの大切さを中学生に理解してもらえる授業を実施する。／②福祉・社会貢献活動を知り、関わるきっかけづくりとして、障がいのある方等、様々な違いを持つ人と一緒に取り組める福祉・社会貢献活動等を企画し、中学生に参加してもらおう。／③高校生向けに、地域共生社会をつくっていく専門人材の仕事や福祉・社会貢献活動を知り・体験するイベント等を実施する。／④関西に在住、在学する大学生に、上記の訪問授業の企画・運営スタッフとなれるように研修を実施し、地域共生社会の重要性を改めて認識してもらおうと共に、それを自分の言葉で伝える練習を行う。研修を修了した大学生には、中学生・高校生に地域共生社会の大切さや専門人材の活動等について伝える機会を設ける。		
事業の対象	大阪市内在学の学生（中学生・高校生） 関西在住・在学の大学生		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<p>&lt;中学生を対象&gt; ■意識変容：日常生活で、地域の中で困りごとがある方への関心が高まる。 ■行動変容：学校や家庭内で自身や他者の好き嫌い、得意不得意について考え、対話をする機会をもつ。／障がいのある方など、様々な違いがある人とともに、社会貢献活動に参加する。</p> <p>&lt;高校生を対象&gt; ■意識変容：日常生活で、地域の中で困りごとがある方への関心が高まる。／地域共生社会をつくっていく専門人材に対する関心が高まる。 ■行動変容：介護現場や居場所支援でのボランティア活動に参加する</p> <p>&lt;大学生を対象&gt; ■意識変容：福祉や社会貢献活動への関心が高まる。／福祉や社会貢献活動の分野への就職意欲が高まる ■行動変容：自分の関心のある社会貢献活動に参加する。</p>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
福祉やボランティアを「我が事」として捉え、行動する学生の数はまだまだ少ない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<p>・訪問授業を47回実施（1年目12回、2年目15回、3年目20回） 各回50人、のべ2350人（1年目600人、2年目750人、3年目1000人）が参加。</p> <p>・体験プログラムを8回実施（1年目2回、2年目3回、3年目3回） 各回5名参加、のべ40人（1年目10人、2年目15人、3年目15人）が参加</p>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	将来の地域共生社会を担う人材の育成
-----	-------------------

■2021年度の計画

事業計画	市内の中学校の総合的な学習の時間等を活用し、地域共生社会の住民のひとりとして支え合うことの大切さを伝えるプログラムを提供するためのコーディネーションを行う。
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中学生を対象としたプログラム 〔訪問授業〕 授業回数：年間 12回 〔体験プログラム〕 開催：年間 2回、参加者：各回 5人（延べ 10人）</li> <li>■高校生を対象としたプログラム 〔訪問授業〕 授業回数：年間 3回 〔体験プログラム〕 開催：年間 1回、参加者：5人</li> <li>■大学生を対象としたプログラム 〔研修〕 開催：年間 4回、参加者：各回 7～8人（延べ 30人） 〔訪問授業〕 参加者：30人</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>中学校12校で15回、およそ1500人、高校2校で2回、50人の生徒を対象に発達障害の理解や、障害全般への理解をパラスポーツを通じて伝える訪問授業を実施した。大学生対象の福祉教育の担い手の育成は、6回研修を開催し、のべ48人の参加。来年度に向けて、15人が次回活動に登録予定。</p> <p>中学生の授業実施後のアンケートでは、4割が福祉・介護職に就いてみたいと回答し、前向きに福祉を捉えるようなコメントが見受けられた。高校生のアンケートでは、「ボランティアについて知れてよかった。参加したいと思った。」「ボランティアについてのイメージが変わった」というコメントが寄せられた。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>新たなプログラムの開発にむけて、他の団体とのネットワークづくりが必要。アンケートでは、「日常が変化した」という生徒が136人と25%程度にとどまり、「記憶に残っている」と回答した生徒は339人と60%程度だった。半数以上の生徒にとっても記憶に残る体験となっていると言えるが、日々の生活と切り離された内容として受け止められているとも考察できる。継続的に同じ中学校に授業に行くなどの工夫も必要と考えられる。</p>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	大阪市受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	第三者の評価委員から客観的に事業への助言や方向性についての示唆を得ることで、事業の質の担保・向上を図る。		
事業概要	上半期の報告と下半期の計画として、年1回開催する。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪ボランティア協会 VCO業務委託事業従事者</li> <li>・み・らいず VCO業務委託事業従事者</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
第三者の評価委員から客観的に事業への助言や方向性についての示唆を得ることで、事業の質の担保・向上を図る。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
評価委員会で出た意見・提案について、次年度の計画に反映させる仕組みができていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年1回、実施する。</li> <li>・評価委員会で出た意見・提案について、次年度の計画に反映させる仕組みをつくり、事業のブラッシュアップを図る。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	「福祉ボランティアコーディネーション業務委託」評価委員会
-----	------------------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	上半期の報告と下半期の計画として、年1回開催する。
アウトプット 目標(指標含む)	上半期の報告と下半期の計画として、年1回開催する（11月開催予定）。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>開催：年間1回</p> <p>2021年11/19（金）18:00－20:00、会場：オンラインZoom</p> <p>評価委員：石井 祐理子（京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 准教授）【委員長】、赤澤 清孝（大谷大学 社会学部 コミュニティデザイン学科 准教授）、川中 大輔（龍谷大学 社会学部 現代福祉学科 准教授）</p> <p>・各委員から助言や意見・提案を得て、下半期の事業推進に生かした。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>・出た意見・提案について、次年度の計画に反映させ、次の評価委員会の冒頭で委員に報告を行うように仕組みを変える。</p>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティアスタイル		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	ボランティアに関心があるがどのように始めたらよいかわからない人や、まずは学びたいという人が、自分にあった活動を見つけられるきっかけをつくり、参加のすそ野を広げる。		
事業概要	週末の新しい過ごし方として、“3時間でできるボランティア活動”を多彩なメニューで提案する。各プログラムに、ボランティア活動経験者が一緒に参加し、ボランティア活動の究極の楽しみ方をナビゲーションする。		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
新規プログラム開発による参加機会及び参加者数の増加
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
これまでは、新規プログラムの開発に時間をかけてきたが、気軽に参加できる入口として、完成形でなくてもプログラムを多く作ることに重点を置く。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、新規のプログラムを1-2件開発する。</li> <li>・新HP、SNS等を活用した効果的な広報・PRについて検討する。</li> <li>・新たなチームメンバーの獲得（毎年1人増）をめざす。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティアスタイル
-----	------------

■ 2021年度の計画

事業計画	コロナ禍でのプログラムの再開や新展開の方向性を探る。新規プログラム開発を対面参加型、オンライン参加型で開発する。SNSや動画等も活用し、参加者数アップを図る。
アウトプット 目標(指標含む)	新規プログラム開拓 2件 既存団体とのプログラム見直し プログラム動画の作成

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>プログラム開催回数：16回、参加人数：のべ89人</p> <p>プログラム名：</p> <p>「山歩きクリーンボランティア」7回</p> <p>「里浜クリーンボランティア」4回</p> <p>「新聞記事デジタル化ボランティア」2回</p> <p>「景観保全活動in大阪城公園」1回</p> <p>「防護ガウンづくりワークショップ」1回</p> <p>「防災まち歩き」1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間目標の新規プログラム開拓2件は達成できた。</li> <li>・既存団体とのプログラム見直しは、コロナ禍収束後に持ち越す予定。</li> <li>・HPリニューアルに伴い、これまで活用していた独自システムが使えなくなったため、元職員の林さんの協力を得て新システムの構築を行った。今後、実際の運用についてマニュアルの整備等が必要。</li> <li>・コロナ禍でも、屋外プログラムを中心として意欲的に実施したことで、ボランティア活動希望者のよい受け皿となった。</li> <li>・事業周知のため、府内社協ボラセンにパンフレットを送付した。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新HPを活用した広報を行う。その他、SNSの活用についても検討する。</li> <li>・新規プログラムの開発を2件行う。屋内プログラムの充実を図る。</li> <li>・新システムの運用マニュアルの整備を行い、リーダーが活用できるようにする。</li> <li>・新規メンバーの獲得に力を入れる。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	KVネット		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用したボランティアコーディネーションのシステムを運営し充実させる。</li> <li>・サイト掲載情報を二次活用し、より募集情報に触れる機会を提供する。</li> </ul>		
事業概要	<p>「関西人のためのボランティア活動情報ネット（KVネット）」の運用。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録：随時</li> <li>・更新作業：年1回（6月発送、7-8月修正）</li> <li>・活動情報加工：メルマガ発行（毎月1回）、新聞掲載情報の提供（毎週1-2件）</li> </ul>		
事業の対象	<p>ボランティア活動に関心のある人 これからボランティア活動を始めたい人 など</p>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
ボランティア活動希望者が、KVネットを通してニーズに合ったボランティア活動を見つけて参加する。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
KVネットに掲載されている情報の中で、多様なニーズに合った活動の種類が限られている。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供を待つだけでなく、ニーズの高い活動、掲載の少ない分野の活動等については、他サイト等から掲載情報を収集し、積極的に声掛けをして掲載につなぎたい。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	KVネット
-----	-------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体登録・募集情報掲載 随時（～2022年3月）</li> <li>・掲載情報の更新確認：年1回（発送 6月、修正 7月）</li> <li>・活動情報加工：メルマガ発行（毎月1回）、新聞（読売わいず倶楽部）掲載情報の提供（毎週1-2件）</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体登録・募集情報掲載 随時（～2022年3月）</li> <li>・掲載情報の更新確認：年1回（発送 6月、修正 7月）</li> <li>・活動情報加工：メルマガ発行（毎月1回）、新聞掲載情報の提供（毎週1-2件）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>新規募集情報掲載件数：217件          新規登録団体数：10団体          メルマガ発行回数：年間12回、メルマガ登録件数：161件          新聞掲載情報件数：48件          KVネット協賛企業名：大阪府共同募金会NHK歳末たすけあい助成金、読売新聞わいず倶楽部、毎日新聞大阪本社、ハンドレッドラボ株式会社</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もコロナ禍の影響が大きく、新規募集情報掲載件数および新規登録団体数は低調に推移した。年度末には、ようやくコロナ禍が落ち着きを見せ始めたため、登録数は徐々に増え始めている。</li> <li>・コロナ禍の影響を受けにくい屋外での活動に関して募集情報の掲載を増やすため、何団体かこちらから声を掛け、団体登録・新規募集情報の掲載に結び付けた。</li> <li>・今年度より、本格的にHTMLメールマガジンを活用した。以前のテキストメールと比較すると情報も見やすく、開封率等の情報も得ることができ、戦略的な運用が可能となった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>約1年間の運用を経て、開封率やクリック数を分析するための情報が蓄積されつつある。分析を通じた発信戦略の考案が期待される。一方、他の情報発信ツールとの差別化も長年の課題であり、本ツール特有の利点について、先述の分析や他ツールとの整理を経て見出すことが求められる。</p>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	インクルーシブボランティアの推進		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター/コーディネーション部会		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input checked="" type="checkbox"/> 理論化
事業目的	障害があるなど、ボランティア活動に参加するのに制約がある人も参加できる「インクルーシブボランティア」を推進することを目的として、コーディネーターが現場で役立てられるようなノウハウを共有する。		
事業概要	①研修やサロンを実施し、現場で使える考え方が共有できる機会をつくる。また、有料化することで、自主財源を確保する。 ②講師派遣のコンテンツ化をして、研修を売り出し、インクルーシブボランティアの考え方や取り組みを広げる。		
事業の対象	ボランティアを受け入れている施設や市民活動団体・中間支援組織のボランティアコーディネーター		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
研修やサロンに参加したボランティアコーディネーターが、「インクルーシブボランティア」の概念について理解し、現場での実践に活かせるようなイメージが持てるようになる。（参加者アンケートによって評価する）
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
精神障害や発達障害への理解が十分ではない現場スタッフが多く、そこからのレクチャーが必要。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
事業運営に活用できる財源確保を行い、インクルーシブボランティアの考え方を大阪府内のボランティアコーディネーターに啓発を行うとともに、モデルプログラムの開拓（3～5件）、検証を行い、コーディネーター育成につなげたい。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	インクルーシブボランティアの推進
-----	------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	障害があるなど、ボランティア活動に参加するのに制約がある人も受け入れる「インクルーシブボランティア」について、ボランティアスタッフとともにセミナーを企画、運営する。
アウトプット 目標(指標含む)	・企画会議（2回）：おもにセミナーの企画・運営に関する協議を行う。 ・オンラインセミナーを開催：1回（有料） ※講師派遣のコンテンツについては、次年度への繰り越し案件とする。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	今年度は、「コミュニティハウスひとのま」の宮田隼さんを講師に迎え、「インクルーシブボランティアセミナー～インクルーシブなボランティア活動づくりのヒント～」を開催し、17名の参加があった。セミナーでは、「コミュニティハウスひとのま」で多様な立場の人を受け入れている事例を交えて、インクルーシブボランティアの推進の前提となる、コーディネーターの「立ち位置」と活動希望者への「まなざし」について考える機会を持つことができた。年度末には、次年度の事業獲得に向けて助成金申請を行い、改めて当事業のこれまでのプロセスや、今後の進め方について整理を行う機会を持つことができた。
次年度への引継ぎ 検討課題	セミナーに関して、昨年度まで大阪市の委託事業であったため無料で開催していたものを今回初めて有料としたところ、参加者が激減したため、価格設定など再検討が必要である。次年度は、府の福祉基金を獲得し、さらに発展的に事業を行えるよう進めたい。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティア保険の受付事務		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	パートナー登録団体への活動支援の一環として、ボランティア保険の受付事務を行い、各団体の活動を支援する。		
事業概要	ボランティア保険の受付事務を行う。		
事業の対象	パートナー登録団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア保険加入窓口となることで、パートナー登録団体との接点を増やし、情報収集やコミュニケーションを図る機会とする。</li> <li>・ボランティア保険に気軽に加入できる場を設けることで、各団体がボランティアを安全に受け入れることを支援する。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
受け付けの際に、事務的に進めることになりがちである。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
受け付け時に、団体の情報収集およびコミュニケーションを積極的に図るよう意識する。け

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティア保険の受付事務
-----	---------------

■ 2021年度の計画

事業計画	滞りなく受け付け事務を進める。
アウトプット 目標(指標含む)	滞りなく受け付け事務を進める。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>受付件数：年間 活動保険 A 117人・B 167人・C 22人、行事保険 I A 14件、I B 3件、I C 1件、II 2件、III 3件、非営利・有償活動：1団体（5人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受付事務を滞りなく進めることができた。</li> <li>・今年度もコロナ禍の影響が大きく、特に行事保険の件数は低調だった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、受け付け時に、団体の情報収集およびコミュニケーションを積極的に図るよう意識する。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	第46期ボランティアコーディネーター養成講座（新任向け）」の企画・実施		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	JVCA共催		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■ 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■ 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■ 参加の促進	■ 理論化
事業目的	新任ボランティアコーディネーターが基礎的な理念から具体的な実践ノウハウを学び、日々のボランティアコーディネーションに生かせるよう、講義や演習での教育プログラムを提供する。		
事業概要	“一日でボランティアコーディネーションが、わかる”という名目で、ボランティアやコーディネーションに関する共通基礎研修の後、施設・NPO・中間支援に分かれて事例をもとに意見交換をおこなう。（認特）日本ボランティアコーディネーター協会との共催。		
事業の対象	社会福祉協議会、社会福祉施設、NPO、ボランティアグループ等で、ボランティア担当業務について概ね1年未満の人		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生のボランティアそのものへの理解が深まる。</li> <li>・受講生がボランティアコーディネーションの基礎知識を体系的に理解することができる。</li> <li>・受講生がボランティアコーディネーター同士のネットワークにアクセスできるきっかけをつくる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
近年、特に社協では人材不足のため、現場でのOJTやOFFJTが十分にできず、新任ボランティアコーディネーターが孤立しているケースが見られる。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアを理解し、ボランティアコーディネーションの基礎知識を体系的に理解する人材を育成する。</li> <li>・ボランティアコーディネーター同士のネットワークを形成し、孤立を防ぐ。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	第46期ボランティアコーディネーター養成講座（新任向け）」の企画・実施
-----	-------------------------------------

■2021年度の計画

事業計画	日本ボランティアコーディネーター協会と共催で、新任ボランティアコーディネーターを対象としたボランティアやコーディネーションに関する基礎的な研修会を開催する。
アウトプット 目標(指標含む)	年1回開催（定員：中間支援35人 施設・団体35人）

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>開催：年間1回 2022年9月16日（木）オンラインZoom開催、参加者：中間支援53人 施設・団体6人 講師：唐木理恵子（日本ボランティアコーディネーター協会 運営委員／袖ワークス 代表）、青山織衣（大阪ボランティア協会職員、日本ボランティアコーディネーター協会副代表理事）、新堀春輔（京都市環境保全活動推進協会 事業課長）</p> <p>概要：ボランティアって何？、ボランティアコーディネーターの役割とは、中間支援／施設におけるボランティアコーディネーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、オンライン開催ということで、例年東京と大阪に分かれて開催している研修を、通常よりも30分時間短縮して合同で行うこととなった。</li> <li>・参加者が全国に広がったことはオンライン化したことによる効果が見られた。</li> <li>・中間支援のコースは定員を超える申し込みがあったが、施設・団体のコースについては、コロナ禍の影響もあり、参加者が少数であった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間について足りなかったという声が多く、次年度以降、タイムスケジュールを検討する。</li> <li>・次年度の事業計画の際にJVCAとコミュニケーションをとる。</li> </ul>

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティアコーディネーションカ3級検定・直前研修		
推進主体	受託事業		
財源	JVCA共催・受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	ボランティアコーディネーションに関する正しい知識の普及啓発を行い、広く理解を促す。		
事業概要	日本ボランティアコーディネーター協会が主催の3級検定・直前研修（大阪会場）の共催を行う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ボランティアコーディネーター協会の担当者</li> <li>・VCOカ3級検定・直前研修の受講生</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
VCOカ3級検定・直前研修（大阪会場）の運営を滞りなく行う。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
コロナ禍において、年間2回の開催が実施できていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
・年間2回の開催について、運営を滞りなく行う。

事業区分：ボランティアコーディネーション事業

事業名	ボランティアコーディネーションカ3級検定・直前研修
-----	---------------------------

■2021年度の計画

事業計画	年2回（6月、12月）実施する。
アウトプット 目標(指標含む)	年2回（6月、12月）実施する。

年間総括（社会に 与えた影響や実施 プロセスを含む）	<p>開催：年間1回</p> <p>2021年12月5日（日）10:00～16:40（直前研修）・17:00～18:00（試験）、会場：大阪府社会福社会館、参加人数：56人</p> <p>講師：永井美佳（当協会職員）、青山織衣（当協会職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月開催予定の第1回は、コロナ禍のため中止となった。</li> <li>・12月開催では引継ぎが不十分だったため、準備が遅れ、直前に慌ただしく対応することになった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者で今回の振り返りを行い、マニュアルを更新する。</li> <li>・JVCAとコミュニケーションを取り、次回は早めに動く。</li> </ul>

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	CANVASよるがく		
推進主体	「CANVASよるがく」チーム		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	社会課題に気づき、協会のミッションに賛同するなかま（個人会員等）が増え、市民活動の広場と砦としての協会&CANVAS谷町が活性化することに加え、財源確保にも寄与する。		
事業概要	ボランティア・NPOをもう一步深く知りたい方を対象に、金曜日の“夜”にCANVAS谷町に“寄る”、学びの場を企画・運営している。 講師は会員・アソシエーターが各自の得意分野をテーマにチャリティーで務めている（参加の力）。		
事業の対象	ボランティア活動に関心のある人 ボランティア・市民活動をしている人・団体 など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
講座参加者数、参加費収入の増加 協会会員数、アソシエーター数の増加
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
オンライン化により、全国からの参加が可能になったにもかかわらず参加者数は伸びない。交流の機会が少ないため、会員増には寄与できていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
「よるがく」の目的：事業を通して社会課題に気づき、協会のミッションに賛同するなかま（個人会員等）を増やす。 達成に向けて、年10回程度の開催（各回の参加者20名以上）を継続的に実施できる仕組みを構築し、「よるがく」をきっかけに、新規個人会員など協会と新たなつながりができる人が増えることを目指す。

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	CANVASよるがく
-----	------------

■ 2021年度の計画

事業計画	持続可能な運営を行い、協会の収益改善に貢献する。他チーム・委員会やパートナー登録団体との連携を進める。オンラインと対面開催のバランスを見極める。
アウトプット 目標(指標含む)	開催回数：年間10回      参加者数：年間 200人 新規会員数：5人増加 ウォロとの連動企画：1回以上      P登録団体との連携：1回以上

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>ほぼ月1回のコンスタントなペースで、様々な社会課題について学ぶ市民学習の機会を提供できた（実施回数：9回、延べ参加人数：164人）。</p> <p>【実施テーマ】市民活動間の情報共有、コロナ禍のボランティア、ヤングケアラー、若者の視点からのボランティア、地域コミュニティの担い手育成、コロナ禍における日米のNPO、子どもと若者のがん、農業と地域活性化、阪神淡路大震災27年。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規会員：なし。コロナの影響でオンラインでの開催となり、新規会員への勧誘が出来なかった。</li> <li>・ウォロとの連動企画：実施（ヤングケアラー）。</li> <li>・P登録団体との連携：2回実施（日本水防災普及センター、チャイルド・ケモ・サポート基金）。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ後を見据えて、セミナーやイベントなどの対面開催とオンライン開催の使い分けについてどう考えるか？ ハイブリッド開催するとしたら、その技術的課題（機材や人材）をどう克服するか？</li> <li>・よるがく事業だけではチーム員の役割が限定され、新しい人を巻き込む魅力に欠ける。もっと楽しい市民学習事業の企画ができないか？</li> </ul>

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	次世代ソーシャル・イノベーター育成プログラム（NextSIP）		
推進主体	事務局		
財源	大阪府共同募金会「令和3年度地域の子どもの福祉のための助成」		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	協会と協力関係にある児童福祉施設・団体と協働し、学校や家庭で居場所がないなど、心身の発達にリスクと生きづらさを抱えている児童・若者を対象に、ボランティア・市民活動への参加を通して、「生きがい」を見出してもらえよう教育プログラムを開発・実施する。児童・若者の「居場所」となる活動づくりと「みまもり」を通じて、児童福祉の増進を実現するとともに、次世代のボランティア・市民活動の担い手となるリーダーを育成していくことを目的とする。		
事業概要	さまざまな社会課題の解決に取り組む若者（高校生から大学生、おおむね24歳まで）を対象として、市民活動のマネジメントに必要な不可欠な能力を2週間、全12回で総合学習することができるオンライン・学習プログラムを提供する。		
事業の対象	さまざまな社会課題の解決に取り組む若者（高校生から大学生、おおむね24歳まで）30人		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
ボランティア・市民活動そのものが社会的孤立の予防や抑制に資することの検証が進み、社会的認知が広がっている状態。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
ボランティア・市民活動そのものが社会的孤立の予防に資することの検証ができておらず、社会的認知も低い。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
心身の発達にリスクと生きづらさを抱えている児童・若者が、ボランティア・市民活動に参加することが「生きがい」につながり、活動の場が「居場所」機能や「みまもり」機能をもつ場を、思いを同じくする協働団体とともに2025年度までに創出する。

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	次世代ソーシャル・イノベーター育成プログラム（NextSIP）
-----	---------------------------------

■2021年度の計画

事業計画	さまざまな社会課題の解決に取り組む若者（高校生から大学生、おおむね24歳まで）を対象として、市民活動のマネジメントに必要な不可欠な能力（企画力・リーダーシップ・ボランティアコーディネーション・会計の基礎知識など）を2週間、全12回で総合学習することができるオンライン・学習プログラムを提供する。
アウトプット 目標(指標含む)	社会課題の解決に向けて動き出したい人が15人（定員の50%）以上生まれる。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	2022年3月14日～26日の任意の時間帯に、11の講義コンテンツをオンライン（Topia）で開催し、30人（中学生1、高校生10、大学生16、社会人3；18-24才。大阪市内4、大阪府内3、他23）、のべ360人が受講。修了生は24人。12回目はアイデアピッチで、27日（日）にオンライン（Zoom）とCANVAS谷町で同時開催。11の講義内容はリサーチスキル、企画力、情報発信、巻き込み力、人材管理・チーム作り、ボランティアコーディネーション、会計の基礎、リーダーシップ、リスクマネジメント・コンプライアンス基礎、活動計画書の作成、プレゼンテーション基礎と実践。講師は5人のべ16人で、青山織衣（協会職員）、梅原聡（協会職員・立命館大学大学院）、永井美佳（協会職員）、松居勇（協会職員）、横山泰三（若者国際支援協会）が担った。修了生24人中、アンケート回答のあった22人の参加者満足度は、有効回答数22のうち、「とても満足できた」82%（18人）、「満足できた」18%（4人）で好評であった。
次年度への引継ぎ 検討課題	プログラム受講生に対する継続的な支援実施のみならず、新たな受講生を募集する等積極的な活動の展開に務める。今回得られたノウハウや改善点（受講生同士の交流の場とセッションは別に設ける、受講生同士の連絡方法を明示して円滑なコミュニケーションを生み出すなど）を活かし、より良いものとなるよう設計し、実施する。

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	講師派遣		
推進主体	事務局および外部講師		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	これまで協会が蓄積してきたボランティアコーディネーションの専門性や市民参加のまちづくり、NPO支援のノウハウを伝え、市民活動の推進と支援につなげる。協会を支える大きな収入源の1つとして、安定した財源を確保する。		
事業概要	協会の職員やボランティア（外部講師）が、依頼に応じて出向き、ボランティア活動全般、団体のボランティアマネジメント研修、スキルアップ研修、NPO経営、企業のCSR・社会貢献活動、行政との協働などをテーマに講演・ワークショップ等を行う。		
事業の対象	NPO、企業・労働組合、学校、行政、社協、NPO支援センター など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師派遣件数の増加</li> <li>・ボランティア（外部講師）数の増加</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
コロナ禍で依頼数が減少、講師ができる人も減っているため、派遣数が伸びない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
2019年度末以降、コロナの影響で依頼件数が落ち込んでいたが、オンライン開催も含めてコロナ前の水準に戻ることを目指す（2018年度講師派遣収入：約900万円）。

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	講師派遣
-----	------

■2021年度の計画

事業計画	協会の職員やボランティア（外部講師）が、依頼に応じて出向く。昨年度に引き続き、オンラインでの講師派遣、オンラインサポートを合わせて売り込む。パッケージ化できるものを作る（インクルーシブボランティア、災害時のスペシャルニーズなど）
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師派遣収入：540万円（前年度比80万円増）</li> <li>・各講師派遣回数：早瀬12回、永井17回、江淵3回、梅田15回、椋木5回、青山20回、外部13回）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度講師派遣収入：約640万円（2020年度：約530万円）</li> <li>・2021年度の講師派遣件数：112件（内訳：職員59件、早瀬41件、外部講師12件、2020年度78件）。</li> <li>・依頼内容は、NPO運営、ボランティア全般に関するものが最も多く、特に「コロナ禍でのボランティア」「オンラインを活用した会議運営」に関するテーマが多かった。</li> <li>・下半期に入り依頼件数は回復傾向で、対面開催も増えつつある。</li> <li>・コロナの影響があっても、動画配信に変更などで中止ではない場合も増えた。</li> <li>・行政、社会福祉協議会等からの委員会、審議会、審査会などの各種委員等の派遣は、48件（2020年度75件）。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度は一部の講師（青山・早瀬・永井）に集中していたが、他の職員やボランティア講師の幅を広げていく。</li> <li>・ホームページリニューアルに伴い、対応できるテーマや講師紹介などの情報を充実させる。</li> </ul>

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	インターンシップ・職場体験の受け入れ		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	協会の大事にしている事業である「人づくり」を目的として、学生等に協会事業に関わる経験を通して、ボランティアコーディネーションや社会課題にふれるきっかけづくり、多様性への理解などを伝える機会とする。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等からの依頼による、学生のインターンシップの受け入れ</li> <li>・就労支援事業所からの職場体験としての受け入れ</li> </ul>		
事業の対象	学生、就労支援事業所に通う人		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン：①活動を通じて、ボランティア・市民活動等に今後も継続して関わろうという機運が高まる。②活動を通して、協会にその後も携わってくれる関係性ができる。</li> <li>・職場体験：担ってもらった事業への貢献ができた上で、体験者にも学びと気づきが得られる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン：これまで関わってきた人の中には、協会でのボランティアやアルバイトとして関わっている人もいるが、繋がりを作れていない学生もいる。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンで関わってくださった人が、今後、会員やアソシエーターとしてボラ協の運営に関わってくださるよう、インターン期間中に関係づくりを積極的に行う。</li> </ul>

事業区分：市民力向上（市民学習・研修）事業

事業名	インターンシップ・職場体験の受け入れ
-----	--------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン：大阪大学、甲南女子大学、武庫川女子大学（依頼があれば）からの受け入れを予定。</li> <li>・職場体験：エンカレッジからの依頼があれば受け入れる。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン：大阪大学1～2人、甲南女子大学1～2人の受け入れ。</li> <li>・職場体験：エンカレッジから年5人くらいの受け入れ。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン：大阪大学1人、甲南女子大学2人の受け入れ。受け入れ事業は、KVネット2人、CCC1人。</li> <li>・職場体験：エンカレッジから年間6人の受け入れ。主に新聞切り抜きスキャン作業を担当。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンでは、非常にいい方が来られたので、今後、受け入れを積極的に行っていく。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	NPO運営などの相談対応&コンサルティング		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPOの運営支援・基盤整備支援の一環として、NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行う。		
事業概要	随時、NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P登録団体</li> <li>・ 全国の中間支援団体、NPO</li> <li>・ NPO運営に関心のある個人（会員、アソシエーターほか） など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行うことにより、NPOの運営・組織基盤が強化され、市民活動への市民参画へのすそ野が広がる。</li> <li>・ 相談対応を契機として、当協会の協力団体（ひいてはパートナー登録団体）が増える。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規の相談依頼団体とは、1回の相談対応終了後、関係が継続していない。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談対応を契機として、当協会の協力団体（ひいてはパートナー登録団体）を増やすための方策を考え、実行する。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	NPO運営などの相談対応&コンサルティング
-----	-----------------------

■2021年度の計画

事業計画	随時、NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行う。
アウトプット 目標(指標含む)	設定なし

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>相談数：年間111件（うち有料相談は4件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に向けてコロナ禍が落ち着いてきたこともあって、相談数は111件となり、昨年の94件から約2割増加した。</li> <li>・相談対応方法としては、面談（オンライン含む）27%、電話61%、Emailが12%と、昨年同様、面談以外の方法が上回った。</li> <li>・主な相談内容としては、「一般運営相談（設立・労務・会計など）」が最も多く、全体の44%を占めている。以下、「団体・ヒト・制度の問い合わせ（トラブル含む）」12%、「事例・人材・連携先を探したい」8%、「広報協力してほしい」7%、「寄付寄贈したい」6%の順となっている。グループや団体の設立に関する内容、助成金（推薦含む）や寄付寄贈先に関する問い合わせも多かった。</li> <li>・昨年増加した、コロナ禍の影響による「組織運営（解散含む）」相談については、今年度はほとんどなかった。</li> <li>・VNC運営委員会で検討した結果、今後、NPO相談については、無料相談日の設定をなくし、初回30分（論点整理）は無料で、それ以外は有料（1時間2,000円）で随時対応することになった（P登録団体の相談対応除く）。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	・事務局態勢がまだ脆弱なため、NPO支援はP登録団体の支援を中心に行う。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	はじめてのNPO説明会		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPOの運営支援・基盤整備支援の一環として、NPO設立・運営などのNPO入門相談会を行う。		
事業概要	随時、NPO設立・運営などの入門相談会を行う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P登録団体</li> <li>・ 全国の中間支援団体、NPO</li> <li>・ NPO設立・運営に関心のある個人（会員、アソシエーターほか） など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行うことにより、NPOの運営・組織基盤が強化され、市民活動への市民参画へのすそ野が広がる。</li> <li>・ 相談対応を契機として、当協会の協力団体（ひいてはパートナー登録団体）が増える。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規の相談依頼団体のほとんどとは、1回の相談対応終了後、関係の継続ができていない。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規の相談依頼団体のうち、1回の相談対応終了後、関係の継続ができるよう考え、実施する。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	はじめてのNPO説明会
-----	-------------

■ 2021年度の計画

事業計画	随時、NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行う。
アウトプット 目標(指標含む)	設定なし

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	開催：年間7回 参加人数：合計9人（1-2人/1回） ・説明後の質問が多かったのは、まず何から始めればいいのか、仲間の集め方、財源の確保、法人格の選択等。
次年度への引継ぎ 検討課題	・ウォロや発行書籍を紹介し、売り上げにつながるよう考える。 ・これまでに多かった質問等を盛り込み、説明の内容をブラッシュアップしていく。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	NPO関連セミナー		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主・NHK歳末たすけあい助成金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	市民活動・NPO関連の情報提供やノウハウ獲得を目的としたセミナーや、時機に応じた講座等を開催し、関係団体等の学びを深める。		
事業概要	市民活動・NPO関連の情報提供やノウハウ獲得を目的としたセミナーを開催する。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P登録団体</li> <li>・全国の中間支援団体、NPO</li> <li>・NPO設立・運営に関心のある個人（会員、アソシエーターほか） など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）

- ・NPO運営などの相談対応およびコンサルティングを行うことにより、NPOの運営・組織基盤が強化され、市民活動への市民参画へのすそ野が広がる。
- ・講座への参加を契機として、当協会の協力団体（ひいてはパートナー登録団体）が増える。

事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）

- ・新規の相談依頼団体のほとんどとは、1回の相談対応終了後、関係の継続ができていない。

中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）

- ・P登録団体を中心とした、NPO支援について、当協会の強みを生かした効果的な支援のあり方について検討し、講座や研修の機会を設ける。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	NPO関連セミナー
-----	-----------

■2021年度の計画

事業計画	市民活動・NPO関連の情報提供やノウハウ獲得を目的としたセミナーを開催する。
アウトプット 目標(指標含む)	セミナー開催：年間 1回

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォロ特集連動企画として、「市民活動のための『法人格』研究」セミナー～法人格に関する相談対応力あげよう！～」を開催した。ウォロ2021年4・5月号特集「市民活動のための『法人格』研究」をテキストに、一般社団法人・NPO法人の違い等を知り、特にNPO支援センター等のスタッフの相談対応力アップを目的として実施。参加者数59人。</li> <li>・ウォロをテキストとしたことで、ウォロの販売や認知度アップにも貢献できた。</li> <li>・2022年度内に施行予定の「労働者協同組合法（ワーカーズ法）」の話題も取り上げ、より充実した内容にすることができた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時機を捉えたセミナー等を実施する。</li> <li>・他団体とのコラボ企画も視野に入れて企画する。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	メルマガ「NPOぼいす」の発行		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPOの運営支援・基盤整備支援の一環として、大阪ボランティア協会の情報（主催事業など）、助成金・支援制度の情報、パートナー登録団体の情報（主催行事や人材募集など）の提供を行う。		
事業概要	毎月1回、配信希望の登録者にメールマガジンを発行する。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P登録団体</li> <li>・ 全国の中間支援団体、NPO</li> <li>・ 配信を希望する個人（会員、アソシエーターほか） など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
読者であるNPOが、提供された情報を活用して運営・基盤整備の強化に役立てる。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
読者の反応およびニーズの把握ができていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月1回、定期的に配信を行う。</li> <li>・ 配信先数1000件をめざす。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	メルマガ「NPOぼいす」の発行
-----	-----------------

■2021年度の計画

事業計画	毎月1回、大阪ボランティア協会の情報（主催事業など）、助成金・支援制度の情報、パートナー登録団体の情報（主催行事や人材募集など）をメールマガジンとして発信する。
アウトプット 目標(指標含む)	発行回数：年12回（毎月1回）

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	発行回数：年間12回（毎月1回）、登録件数：924件（前年度882件） 主な掲載内容：NPO支援に資する当協会主催事業（講座、セミナー等）・P登録団体主催事業の告知、助成金情報等 ・毎月1回、中旬発行を滞りなく実行できた。 ・複数の団体から、助成金情報を参考にしているという声が届いた。
次年度への引継ぎ 検討課題	・より団体に役立つ内容となるよう工夫していく。 ・助成金情報の充実を図っていきたい。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	パートナー登録制度の運営		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	協会が推進する市民参加性、社会提言性、情報公開性という3つの視点を大事にするNPOを、市民活動を促進するパートナーとして連携を図る。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体からの運営相談、助成金申請時の推薦文の作成、寄付・寄贈のコーディネーションなどを行う。</li> <li>・メーリングリストの運営や学習会・交流サロン等を通して、登録団体相互の連携、交流を図る。</li> </ul>		
事業の対象	協会が推進する市民参加性、社会提言性、情報公開性の3つの視点を大事にする非営利活動団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体と顔の見える関係ができ、互いがパートナーとして相談し合える関係性を作る。</li> <li>・パートナー登録をしたい団体が増え、様々な団体とのネットワークができる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体をすべて把握できておらず、お付き合いだけで登録を続けてくれている団体も多く、登録料に見合った価値の提供ができていない。</li> <li>・定期的な団体同士の交流の場が持っていない。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアとともに、P登録支援の効果的なあり方について、検討を進めていく。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	パートナー登録制度の運営
-----	--------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体同士の交流会（サロン）の開催。</li> <li>・現在の登録団体ファイルを見直し、登録団体紹介カードを作成し、CANVAS谷町に設置（たにまちっくと連携）。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは、VNC運営委員会の組織再編について検討し、今後のP登録支援を考えていく態勢を整えることから始める。</li> <li>・登録団体紹介カードを作成し、CANVAS谷町に設置（たにまちっくと連携）。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度新規入会団体：9団体（For International Students 機構、茨城NPOセンター・コモンズ、チャイルドライフサポートとくしま、カウンセリングスペース・リヴ、NPO法人ちゃいるどりいむ、特定非営利活動法人C・キッズ・ネットワーク、NPO法人ペット防災サポート協会、寝屋川市民たすけあいの会、泉北のまちと暮らしを考える財団）</li> <li>・2021年度休会団体（次年度初旬に要確認）：1団体（日本レスキュー協会）</li> <li>・2021年度未退会団体：9団体（應典院寺町倶楽部、ファミリーコミュニケーション・ラボ、iPledge、生活ネットワーク「虹」、避難ママのお茶べり会、CHARM、高齢者外出介助の会、いずみおおつ市民活動ネット、大阪手びきの会 ※団体解散、中卒・中退のこどもをもつ親のネットワーク ※団体解散、ACODAローズ ※団体解散、O'hana親と子の絆を育む会）</li> <li>・事務局体制が脆弱になったため、事業計画であげていた団体同士の交流会（サロン）の開催について再検討が必要となり、年度内に実施することができなかった。</li> <li>・たにまちっくと連携し、登録団体紹介カードを作成し、CANVAS谷町に設置することができた（約40団体分）。</li> <li>・パートナー登録団体であるD×Pが始めた10代20代を対象とした食糧支援に応援の依頼があり、協会の関係企業（PCLF会員企業、賛助企業など）に食料品の寄贈を依頼。協会としても大口の寄贈（乾麺のうどん）の小分け作業をSUGのメンバーを中心に担当した。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、たにまちっくと連携し、登録団体紹介カードを作成し、CANVAS谷町に設置を進める。</li> <li>・戦略タスクチームで、P登録支援の在り方を検討していく。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	他団体への寄付・寄贈		
推進主体	事務局		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPOの運営支援・基盤整備支援の一環として、他団体への寄付・寄贈を行う。		
事業概要	随時、他団体への寄付・寄贈を行う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P登録団体</li> <li>・全国の中間支援団体、NPO など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
他団体への寄付・寄贈を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
寄付・寄贈は受け身なので、品種、数量もバラバラであり、不定期的な提供となる。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
継続して、他団体への寄付・寄贈を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	他団体への寄付・寄贈
-----	------------

■2021年度の計画

事業計画	随時、他団体への寄付・寄贈を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	設定なし。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>●寄付は、7月にシングルマザー支援に取り組む団体の寄付先紹介依頼があり、パートナー登録団体（候補団体含む）に3団体を紹介し寄付実行につなげた。また3月にウクライナ人道支援に取り組む団体の寄付先紹介依頼があり、1団体を紹介し寄付実行につなげた。</p> <p>寄付元（企業数／個人数）：0企業／1個人、寄贈先（団体数）：3団体</p> <p>●寄贈は、上期は1件にとどまったが、下期は毎月のように申し出があり、寄贈先として多くの団体へ届けることが出来た。</p> <p>寄贈元（企業数／個人数）：10企業／1個人、寄贈先（団体数）：41団体</p> <p>主な寄贈品：お菓子の詰合せ、ビデオカメラ、デジタルカメラ、カレンダーなど。</p> <p>※9月に三井住友海上火災保険から、事務所の閉鎖や移転に伴い、不要になった事務機器の寄贈を申し込みしていただく。寄贈品：事務椅子、ワゴン（脇机）、個人ロッカー、収納キャビネット類等。寄贈先：希望される品を募り、10月に8団体に届けた。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	2021年度同様に継続して、随時、寄贈元からの依頼を受けて、他団体への寄付・寄贈を継続的に行う。カレンダーについては、多く残した結果となり、受入れ時期、数量等検討が必要。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	他団体の推薦		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPOの運営支援・基盤整備支援の一環として、他団体の推薦を行う。		
事業概要	随時、他団体の推薦を行う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P登録団体</li> <li>・全国の中間支援団体、NPO など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
他団体の推薦を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
特になし。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
他団体の推薦を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	他団体の推薦
-----	--------

■2021年度の計画

事業計画	随時、他団体の推薦を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	必要に応じて、随時対応。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>年間11件の推薦を行った（採択4件、不採択6件、確認中1件）。</p> <p>推薦を行った助成金名：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの笑顔はぐくみプログラム助成 ※採択1件</li> <li>2) 大和証券福祉財団 ※不採択1件</li> <li>3) 産経市民社会貢献賞2021（第47回）※不採択1件</li> <li>4) SOMPO福祉財団（基盤強化資金助成） ※採択1件、不採択2件</li> <li>5) SOMPO福祉財団（認定NPO法人格取得支援） ※採択1件</li> <li>6) キリン福祉財団 ※確認中1件</li> <li>7) 大阪商工信金社会貢献賞 ※採択1件、不採択2件</li> </ol> <p>・P登録団体にとって、重要な支援の一つとなっている。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採択率を上げていくために、担当者のスキルアップが必要である。</li> <li>・各団体の活動をしっかりと把握しておく必要がある。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	他団体への後援名義・運営協力		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	NPOの運営支援・基盤整備支援の一環として、他団体への後援名義提供・運営協力を行う。		
事業概要	随時、他団体への後援名義提供・運営協力を行う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P登録団体</li> <li>・全国の中間支援団体、NPO など</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
他団体への後援名義提供・運営協力を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
特になし。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
他団体への後援名義提供・運営協力を行うことで、市民活動への市民参加の促進を支援する。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	他団体への後援名義・運営協力
-----	----------------

■2021年度の計画

事業計画	随時、他団体への後援名義提供・運営協力を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	必要に応じて、随時対応。

年間総括（社会に 与えた影響や実施 プロセスを含む）	年間7件の後援名義申請を承認し、一部、広報協力も行った。
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申請があれば、速やかに処理を行う。</li> <li>・事業後、速やかに確実に事業報告を提出いただくよう案内する。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援（パートナー登録料の半額助成）を目的とした「自助グループ利用応援募金」で集まった寄付を元に、必要とするセルフヘルプグループへ助成を行う。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸会議室（大会議室、小会議室、たたみスペース、テレワークブース）の貸し出し</li> <li>・コーディネーションデスク、フレックスデスク、ロッカー、レターボックスの貸し出し</li> <li>・市民活動に関する情報提供（チラシ配架等）</li> <li>・寄付を財源とした応援基金の運営</li> </ul>		
事業の対象	・パートナー登録団体のセルフヘルプグループ		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
場を必要とするセルフヘルプグループ等が、コロナ禍でも活動を安定して継続できる。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
セルフヘルプグループは外部からの支援を受けない意向があるため、応援基金の利用がない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
・必要な団体に、情報をきちんと届ける。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	場を必要とするセルフヘルプグループ等への支援
-----	------------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	パートナー登録料の負担が厳しくなった団体から申し出があれば、半額助成を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	必要に応じて、随時対応。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年度の利用団体：0件</li> <li>・ 外部からの支援を受けない団体には、半額助成も受けることができないため、対象となる団体であっても助成できないケースがあった。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部からの支援を受けない団体への対応は、何かできるかを団体と話し合う必要がある。</li> <li>・ 寄付は集まったものの利用する団体がいない状況のため、今後について検討の必要あり。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	市民活動スクエア「CANVAS谷町」		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	市民活動がより推進するために必要な機能（デスク、ロッカー、レターボックス、貸会議室、印刷機など）を安価で貸し出すとともに、拠点として団体同士の交流等を生み出していくことを目的とする。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸会議室（大会議室、小会議室、たたみスペース、テレワークブース）の貸し出し</li> <li>・コーディネーションデスク、フレックスデスク、ロッカー、レターボックスの貸し出し</li> <li>・市民活動に関する情報提供（チラシ配架等）</li> </ul>		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動団体（パートナー登録団体）</li> <li>・一般（企業、個人など）</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「CANVAS谷町」を拠点に団体の活動がより活性化する。</li> <li>・「CANVAS谷町」で出会った人・団体同士のコラボレーションが進む。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響で利用が激減しており、それに対して有効な対策が取れていない。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
会議室の貸し出しだけでなく、他の方策で収入を得ていくことを検討し、CANVAS谷町での収入をコロナ前の水準に戻していくことを目指す（2018年度収入：約340万円）。

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	市民活動スクエア「CANVAS谷町」
-----	--------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の徹底</li> <li>・利用減（利用収入減）に対する拠点応援寄付の募集</li> <li>・会議室空き状況カレンダーのホームページ掲載</li> <li>・補助金等を活用して感染症対策グッズを購入し（パーティション等）、会議室の定員を元に戻す</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点応援寄付が100万円あつまる</li> <li>・協会ホームページでいつでも貸会議室の空き状況を確認できる</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度利用件数：1138件（P登録482、ボラ協593、一般44、会員19）、稼働率：大会議室22%、ハーフ大会議室7%、小会議室36%、畳スペース5%、情報交流エリア10%</li> <li>・会議室収入：1,367,775円（2020年度1,430,520円）</li> <li>・拠点応援寄付の実績：37件、729,800円</li> <li>・コラボエリアの利用実績：コーディネーションデスク1団体、フレックスデスク3団体、ロッカー23団体（複数利用を含む）、レターボックス26団体</li> <li>・上半期は緊急事態宣言の期間も長く利用は低迷したが、下半期に入り会議室の利用は回復傾向。</li> <li>・協会ホームページから、各会議室の空き状況（予約状況）が見られるようカレンダーを設置した。</li> <li>・緊急事態宣言などに伴い、定員の半分までの利用としていたが、緊急事態宣言が開けた10月より、3分の2の定員に変更した。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年4月から、紙ベースの会議室台帳を廃止し、完全にオンライン化予定。2022年度中に申請書のオンライン化を目指す。</li> <li>・社会状況を踏まえながら、会議室の利用定員を見直す。</li> <li>・会議室収入だけではない収入の方策を検討し、収入の回復を目指す。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	魅力ある「CANVAS谷町」づくり事業		
推進主体	CANVAS谷町のデザインチーム「たにまちっく」チーム		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	市民活動拠点として人・団体の繋がり促進（親しみやすい「CANVAS谷町」の実現）およびCANVAS谷町の利用価値向上を目的とする。		
事業概要	魅力ある「CANVAS谷町」の実現に向けた空間コーディネート、各種設備・ツールの作成とメンテナンス、情報発信などそれぞれのメンバーの「アイディア」と「得意」をいかした活動をしている。		
事業の対象	CANVAS谷町を利用するすべての利用者		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）

利用者にとって、CANVAS谷町がより使いやすくなるように整備する。会議室の利用者以外にも利用価値が認識され、市民活動の拠点として人が集う場となり、そこから新しい活動が生まれている。

事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）

- ・貸室以外にCANVAS谷町が、利用者にとって市民活動の情報収集ができ、なお市民自治の拠点として、人が集まり過ごせる場になっていない。
- ・どのように利用できるのかを、十分に知らせることができていない。

中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）

まずは、自分たちが居心地がよいと思える場として、空間づくりをスタートさせ、具体的には椅子や机などの素材も含めて考え、提案していく。

事業名	魅力ある「CANVAS谷町」づくり事業
-----	---------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<p>①「CANVAS谷町」利用価値向上のため、「パートナー登録団体紹介カードの掲示」や「会議室の貸出備品などの分かりやすい紹介」に取り組む。</p> <p>②親しみやすい「CANVAS谷町」の実現のため、「カフェコーナーの利便性向上（マシン使い方動画作りや飲み物の衛生管理のグッズ設置）」や、「コミュニティづくり・活性化（カフェスペースの活用や掲示ボードでのコミュニケーション）」や「チーム・委員会の紹介」に取り組む。</p> <p>③事業を進めるマンパワー発掘のため、随時新メンバーを募集する。</p>
アウトプット 目標(指標含む)	<p>①「パートナー登録団体紹介カードの掲示」を124団体分完成させる。「会議室の貸出備品などの分かりやすい紹介」にタイミングを見て取り組む。</p> <p>②感染症が落ち着き拠点に人流が戻ったら、「カフェコーナーの利便性向上（マシンの使い方動画作りや飲み物の衛生管理のグッズ設置）」を実行する。「コミュニティづくり・活性化（カフェスペースの活用や掲示ボードでのコミュニケーション）」に取り組む。「チーム・委員会の紹介」にタイミングを見て取り組む。</p> <p>③新メンバーを増員する。</p>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>CANVAS谷町へ来所する活動希望者や運営相談者へ「パートナー登録団体」を紹介する方法を、従来の紙ファイルから団体紹介カードに大幅変更することとなり、たにまちっくチームがカード制作を担当した。21年度は希望する40団体のカードを完成させ、掲示することができた。団体の写真やホームページを参照できるQRコード付きの名刺サイズカードは、分かりやすいと大変好評である。CANVAS谷町の価値向上の一助になれたと自負している。また、協会ホームページのリニューアルに際し、最寄り駅からの写真付き道案内コンテンツの制作に協力し、来所者の利便性向上に寄与できた。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>①「パートナー登録団体の紹介カードの掲示」の完成（更新含む）。新HPのパートナー登録団体紹介ページとの連動。</p> <p>②「カフェコーナーの利便性向上（マシンの使い方動画作りや飲み物の衛生管理のグッズ設置）」「コミュニティづくり・活性化（カフェスペースの活用や掲示ボードでのコミュニケーション）」は、拠点に人流が戻ってくる頃を見計らい検討再開する。</p> <p>③①が落ち着いたら、「チーム・委員会の紹介」に取りかかる。</p> <p>④新メンバーを増員する。</p> <p>※「会議室の貸出し備品などの分かりやすい紹介」は保留とする。</p>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	ボランティア・NPO推進センター運営委員会		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター運営委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	協会として、ボランティア・NPOを総合的に支援するために、各事業を横断的な視点で捉えて戦略を練り、今より多様な人たちがボランティア活動に参加できている状態をつくる。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・NPO事業などに関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として会議を開催する（毎月1回程度）。</li> <li>・ボランティア・NPO事業の骨格と方向性の検討、CANVAS谷町の運営と展開など、各事業がよりスムーズに展開できるようにPDCAを推進する。</li> <li>・コーディネーション部会については、主としてコーディネーション事業の戦略を検討したり、事業の進捗管理、評価等を担っており、一部事業では、ボランティアスタッフと事務局が協働でプロジェクトを進めている。</li> </ul>		
事業の対象	ボランティア活動を行う人全般とNPO		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
社会的孤立の抑制解消に取り組むNPOをサポートしたり協働したりするとともに、協会をハブとしてつながるヒト、モノ、カネ、技術等を、ボランティアコーディネーション力によって参加促進の力とし、取り組みの輪を広げていく。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体支援戦略を検討するにあたって、NPO側のニーズ把握が弱い。</li> <li>・パートナー登録団体でボランティアが活動に参加している団体が少ない。</li> <li>・コーディネーション部会との役割分担で議論の内容や視点が縦割り傾向で横断的な展開や検討が難しい。</li> <li>・他チームや委員会が同じテーマに取り組んでいても、共に活動をするまでに至っていない。</li> <li>・経済的、時間的な余裕がない、障害があるなど活動するのに制約がある人が増えていて、参加につながりにくい状況にある。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOのニーズを把握するためパートナー登録へのヒアリングを行い、NPOのサポートプログラムにて伴走型支援を行う。</li> <li>・ボランティア・NPO推進センター運営委員会とコーディネーション部会の横断的展開の結論を出す。</li> <li>・アソシエーター全員が、1つ以上の各チーム・委員会の「拡大会議」に参加する</li> <li>・チーム・委員会の横のつながりをつくって、チーム横断的な事業が計画される。</li> <li>・より敷居の低い、間口の広い活動のきっかけとなるボランティアコーディネーションについて、新たなプログラムが生み出されている。</li> </ul>

事業区分：NPO運営支援・基盤整備事業

事業名	ボランティア・NPO推進センター運営委員会
-----	-----------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「各事業のPDCAチェック」「横断的な課題ブレ協議・提案の継続」のため、拡大ボランティア・NPO推進センター運営委員会を行う（2021年10月頃）。</li> <li>・パートナー登録制度のサービス内容見直しを継続検討。</li> <li>・団体からのニーズや困りごとをヒアリングし、それを基にNPO支援を考える。</li> <li>・交流会（企業と）、相談、イベントなどの実施。</li> <li>・福祉ボランティアコーディネーション事業（初年度）を滞りなく進める</li> <li>・ボランティア・NPO推進センター運営委員会とコーディネーション部会の組織と事業の在り方について検討する</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・NPO推進センター運営委員会とコーディネーション部会について、2022年度以降の組織体制について、検討する会議を開催する。</li> <li>・拡大ボランティア・NPO推進センター運営委員会の開催（年1回）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>2022年1月29日（土）14時～17時に、対面・オンライン（Zoom）のハイブリッドにて、対象を組織全体に広げて拡大運営委員会を開催。9チーム・委員会から15人（V9人、職員6人）参加。〈成果〉連携を強化し、それぞれの強みを生かした事業の実践を検討することができた。「各事業のPDCAチェック」についても振り返った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「P登録制度のサービス内容見直しの検討」や、コーディネーション事業に関する戦略の協議については、組織の再編・再構築を優先し、まず体制づくりから話し合いを実施したため、着手せず。</li> <li>・組織再編に関しては、当運営委員会からの提案で、2022年度、協会全体で総合的なコーディネーション戦略を検討する会議の設置が決定し、新たな組織体制についての検討を進めるスタートラインに立つことができた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>2022年度は運営委員会をいったん休止して、暫定的なタスクチームを設置する形で事業の企画・運営を行うこととなった。協会全体で総合的なコーディネーション戦略を検討する会議での議論と併せて、現場においてもより効果的に、包括的なコーディネーション機関のあり方を模索していきたい。</p>

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	災害時の運営支援者・運営者を派遣（災害発生時）		
推進主体	災害支援委員会/SUG		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	被災者・被災地のスムーズな復旧・復興のためのささえあいをつなぐことを目的として、職員とボランティアをチームにして、災害時の災害ボランティアセンター等も運営支援者を派遣する。（災害発生時）		
事業概要	<p>①平時は全国各地での災害情報、活動情報など情報交換を行う。</p> <p>②災害が発生した時は、チームとして災害ボランティアセンター等の運営支援や災害ボランティア活動を行う。</p> <p>※支援に際しては、協会の行動宣言でもある「スペシャルニーズ」に着目した支援を行う。</p>		
事業の対象	被災地の中間支援組織や支援団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）

- ・支援に入った地域の被災者（特に要配慮者）が、支援から抜け漏れることなく、スムーズに日常の暮らしを取り戻せるようなコーディネーションができています。
- ・被災地の地元で活動する支援団体や中間支援組織が、要配慮者への災害支援や暮らしの支援に関われるようになる。
- ・被災地の支援団体や中間支援組織が、外部支援団体とスムーズに連携することができるきっかけをつくることできている。

事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）

災害ボランティアセンターで要配慮者支援を併せて行えるような素地がまだまだ全国的に育っていない。

中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）

地元または他所での災害時に、被災地の関係団体からの要請にもとづき、多様な主体の連携をつなぐコーディネーションの視点、要配慮者支援の視点を持って支援活動を行う。

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	災害時の運営支援者・運営者を派遣（災害発生時）
-----	-------------------------

■2021年度の計画

事業計画	全国各地での災害情報、活動情報など情報交換を行い、必要に応じて災害ボランティアセンター等の運営支援や災害ボランティア活動を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	災害発生時に支援の必要性を検討。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	2021年度は、7月に熱海付近で大きな災害が発生し、静岡ボランティア協会にも直接状況を確認し、情報共有会議にも出席したが、地元で完結できる状況であったため、当協会としての支援活動は行わなかった。その際に、臨時災害支援委員会を開催し、メンバーが多方面から収集した情報をスプレッドシートに集約するなど、新たな取り組みができた。
次年度への引継ぎ 検討課題	引き続き、コロナ禍での災害支援の動向を注視し、大阪ボランティア協会の強みを生かした被災地支援のあり方を検討したい。

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	災害時の要支援者をテーマとした体験型プログラム（災害時のスペシャルニーズ支援事業の後継）		
推進主体	災害支援委員会/SUG		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	災害時に孤立しがちな“スペシャルニーズをもつ人”を支える仕組みを広め、深める。		
事業概要	<p>①大阪市受託コーディネーション事業のうち「災害に備えた支援体制の構築」事業についてコーディネーション部会と連携し、事業を通じて災害時のスペシャルニーズについての理解を広める。</p> <p>②スペシャルニーズによりよく対応するため、協会の災害支援の方針を明確にし、平時から備えをする。</p> <p>③おおさか災害支援ネットワーク（OSN）へ世話役団体として参加。災害時にスペシャルニーズによりよく対応できるネットワークの仕組み作りをOSNや行政等へ提案。</p>		
事業の対象	災害支援を行う市民活動団体・機関（企業含む） 要配慮者支援を行う市民活動団体・機関 行政・社協		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害ボランティア入門セミナー等の参加者が、災害時の要配慮者の存在に気づき、災害時のイメージを持てるようになる。</li> <li>・協会内で、災害時の要配慮者支援の方針が共有され、災害時により迅速かつスムーズに支援に入れる体制を整える。</li> <li>・OSNの「要配慮者部会」において、平常時から要配慮者支援を行う団体や機関が集い、顔の見える関係性を構築できている。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
OSNでも、災害支援団体以外で平常時から要配慮者支援に取り組んでいる市民活動団体とのつながりがまだまだできていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・OSNの「要配慮者部会」での取り組みを通じて、スペシャルニーズ支援事業で連携したNPOとの関係性を強化し、今後の事業展開でも連携できるような関係性を深める。</li> <li>・当事業を推進するための財源の確保について検討する。（助成金等）</li> </ul>

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	災害時の要支援者をテーマとした体験型プログラム（災害時のスペシャルニーズ支援事業の後継
-----	---

■2021年度の計画

事業計画	大阪市受託コーディネーション事業における「災害に備えた支援体制の構築」事業におけるセミナーの開催およびOSNの「要配慮者部会」の企画・運営を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーション部会との連携で入門セミナーを開催：1回参加者30名</li> <li>・OSNの「要配慮者部会」を定例会とは別で年に1回開催</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	7月OSN定例会で開催した要配慮者部会では、多様な関係者が集い、情報共有をすることができたが、下半期は取り組みを進められなかった。 2022年1月15日（土）13時30分～15時30分に「災害ボランティア入門セミナー」を開催し、41名の参加があった。講師に災害ボランティアの中村伸一郎さん、大阪市社会福祉協議会の阪井誠一さんを迎え、災害ボランティアの活動時の要配慮者への支援のポイントについても伝えた。
次年度への引継ぎ 検討課題	OSNの要配慮者部会については、再度スペシャルニーズ推進事業で関わりのあった団体にも声をかけ、具体的な取り組みを進めていきたい。部会の開催の際には、福祉関係者や介護事業所のスタッフが参加しやすい時間帯や時間設定をする必要がある。

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	広域避難者の支援活動		
推進主体	災害支援委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	東日本大震災に起因した取組みの一環として、顔の見える関係性のなかでニーズがある限り支援する。		
事業概要	大阪・関西での避難者支援活動に取組むパートナー登録団体（2団体）の運営相談にのるとともに、時に協働でイベントを企画実施する。また、「ホッとネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）」に参加し、避難者支援活動にかかる情報収集も継続する。		
事業の対象	大阪・関西で広域避難者支援活動に取組むパートナー登録団体2団体（避難ママのお茶べり会、まるっと西日本）が支援している市民		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
大阪・関西での広域避難者支援活動が持続可能であるよう、市民活動推進機関としてできること・やるべきことに取り組む（具体的には避難者支援活動団体と対話をして見つける）。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
大阪・関西での広域避難者支援活動を「支援する」「支える」意識はあったが、避難者支援活動から「学ぶ」「協働する」という意識は低い。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
大阪・関西での広域避難者支援活動が持続可能であるよう、当該団体と対話をして学び、協働の機会を探しながら、市民活動推進機関としてできること・やるべきことに取り組む。1団体につき1協働事例を生み出すことを目標とする。

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	広域避難者の支援活動
-----	------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪・関西で広域避難者支援活動に取り組むパートナー登録団体2団体（避難ママのお茶べり会、まるっと西日本）の運営相談に随時対応する。</li> <li>・2022年3月11日頃に、まるっと西日本が行う「3.11を想う集い」をCANVAS谷町で受け入れ、共催する。</li> <li>・「ホッとネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）」に参加し、機会が合えば活動に参加する。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営相談に1回以上対応する。</li> <li>・3.11の行事を共催する。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>大阪・関西で広域避難者支援活動に取り組むパートナー登録団体の運営相談にのったり、意見交換を行ったりした。そのなかで、東日本大震災による広域避難者が直面した課題や歩んだ道のりは、大阪・関西が被災した時に私たちが直面する課題や歩む道のりと重なる点が多いことに気づけた。その一貫で、福島県・JCN主催の「避難者支援連携協会会議（大阪）」の企画相談に応じ、おおさか災害支援ネットワーク（OSN）とも連携して、会議を実現することができた。双方にとって有益な内容であり、自主事業でもよいので、年に1度は継続開催したいと共鳴しあった。また、2022年3月11日（金）にCANVAS谷町で、「3.11を想う集い」をまるっと西日本と協会の共催で開催し、広域避難者の声にふれることができた。「ホッとネットおおさか（大阪府下避難者支援団体等連絡協議会）」に参加し、避難者支援にかかる情報を収集した。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>広域避難者支援団体と災害支援団体が互いの経験値を共有し高め合うことが、大阪・関西での大規模災害の備えに資することに気づけたため、年に1回程度の経験値共有を行い、大阪・関西における避難者支援および災害支援の対応策を協議する機会を設けたい。</p>

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	災害支援委員会		
推進主体	災害支援委員会/SUG		
財源	自主、NHK歳末たすけあい配分金		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	□創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	□場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	多様な主体の連携と市民の力で“だれひとり取り残さない災害支援”を目指す		
事業概要	<p>・災害に迅速に対応するため、平時から協会の災害支援活動の方針を検討する。特に災害時のスペシャルニーズへの対応を重要なミッションとする。そのための協会内の体制作り・人材育成を計画し実行する。</p> <p>・災害支援を効果的に行うため、平時から外部の多様な主体とネットワーク（＝顔の見える関係）作りを進める。ネットワークを通じて、または直接に、スペシャルニーズを持つ人を支援するNPO等を支援する。</p> <p>・災害発生時に、協会としての具体的な支援・活動方針を検討し、（常任運営委員会の承認の下）速やかに実行する。</p> <p>・東日本大震災10年の協会としての総括を行い、コロナ禍における災害支援の課題を踏まえて、協会の事業継続のための計画（BCP）および「災害支援方針」を見直し、更新する。</p>		
事業の対象	・災害支援に関わる人全般と関連するNPO・団体・企業等		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
災害時に多様な主体の連携と、ボランティア・市民の力が活かされることにより、特別な配慮（スペシャルニーズ）を必要とする人にその個別ニーズに応じた支援の手が差し伸べられ、誰も取り残されない。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
災害のたびに、災害弱者である特別な配慮（スペシャルニーズ）を必要とする人たちに十分な支援の手が届かず、復旧・復興から取り残される人がいる。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会内のBCPを具体化する。（2023年度中）</li> <li>・初動対応のための財源のファンドレイジングを強化する。（目標値は要検討）</li> </ul>

事業区分：災害・復興支援、防災事業

事業名	災害支援委員会
-----	---------

■ 2021年度の計画

事業計画	<p>1) 災害時のスペシャルニーズ（SN）支援の仕組みの深化、啓発。</p> <p>2) 実災害時にSNによりよく対応するため、大阪における支援団体のネットワークをバージョンアップ。</p> <p>3) 協会の災害支援にかかる体力の強化（人材、資金、情報システム等）。</p>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に孤立しがちな“スペシャルニーズをもつ人”を支える仕組みを広め、深める。</li> <li>・協会のBCPを推進し、平時から備えをする。</li> <li>・多様な主体の連携を促進する。</li> <li>・実災害への対応</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>BCPの見直しの一環で、常任運営委員会、災害支援委員会、SUGが合同で7月20日に安否確認訓練を実施した。東日本大震災の総括については、委員会での議論に加え、ボランティアスタッフ3人が9月4日、11日にワーキング会議を開催し、協議を行った。最終総括については2022年度の委員会で行う。3月17日に岡山NPOセンターの石原さん、3月27日に静岡県ボランティア協会の鳥羽さんを招いて災害時の初動対応や平時からの取り組みについて学ぶ内部研修を開催。延べ17人が参加した。</p> <p>D×Pの緊急食糧支援に関しては、災害時対応で培った機動力を生かし、SUGとの連携で食材の仕分けや運搬などに対応した。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>2021年度はOSNでも有事の初動について三者連携の中で具体化していくことになっているため、その動きと連動して、協会内のBCP（特に初動の動き）について具体化していきたい。</p>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	企業市民活動などの相談対応、コンサルティング		
推進主体	CCC運営委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	□市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	・「有料相談事業」を軌道に乗せる。（事例の見せ方、どのような企業団体ニーズに応えるかの再整理）		
事業概要	・ニーズ、ターゲット、強み（企業、中間支援、NPOなどのネットワーク、実績と信頼等）の議論をもとに企画の再構成とPR改革、ホームページ更新に取り組む。		
事業の対象	・企業の社会貢献・CSR・ESG・サステナビリティ等の担当者		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
・リンクアップフォーラム加盟企業や新規に取り組もうとしている（社会貢献・ESG・SDGs等）企業の担当者を窓口にし、ボランティア活動の企画相談を丁寧に行うことで、助成金事業等へつなげる。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
・企業相談は、リンクアップフォーラムの会員企業の紹介等で増加しているが、はじめてのボランティア説明会にはあまり要望がなく、実施回数も少ない状態である。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
・ホームページのリニューアルにより立ち寄り率を向上すると共に、リンクアップフォーラム加盟企業を窓口にし、企業の社会貢献・ESG・SDGs等の担当者にボランティア活動の企画相談を幅広く実施し、助成金事業等へつなげる。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	企業市民活動などの相談対応、コンサルティング
-----	------------------------

■2021年度の計画

事業計画	・リンクアップフォーラム加盟企業を窓口にし、ボランティア活動の企画相談を丁寧に行うことで、助成金事業等へつなげる。
アウトプット 目標(指標含む)	・企業相談の拡充（ソリューションボックスの作成（案）） ・リンクアップフォーラム・助成金事業等への入り口拡大

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からの相談は毎月発生し、それに対しては丁寧な対応を実践している（11回）。</li> <li>・はじめてのCSR・社会貢献講座も1回実施。</li> </ul> <p>※6月にはリンクアップフォーラムの会員企業からの紹介で「フジシールインターナショナル」から、初めて企業として社会貢献活動を行いたいが、実施方法について知りたいとの要望があり、7月に「はじめてのCSR・社会貢献講座」を実施する。その後もリンクアップフォーラムにオブザーバーとして参加いただき、学びの場を提供する。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業からの相談に対しては、継続して丁寧な対応を実践していき、リンクアップフォーラム会員や助成金受託等の有料事業へつなげていく。</li> <li>・はじめてのCSR・社会貢献講座も要望に応じて実施。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	積水ハウスマッチングプログラム協働事務局		
推進主体	事務局		
財源	積水ハウス受託事業		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	積水ハウスが行うマッチングギフト形式の助成の事務局を協働で実施。ESG経営のSocialの活動の一環として、サステナブル社会の構築に寄与する社会的活動、及び国連が進める社会課題の解決（SDGs）につながる市民団体の事業を応援する。		
事業概要	「積水ハウスマッチングプログラム」の協働事務局として、助成プログラムの構築、広報、申請書の受け付け、審査、アドバイザー就任等の役割を担い、市民活動団体に助成金をつなぐ。		
事業の対象	全国の「こども」「環境」分野のNPO		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の推薦を必須とする仕組みへの大幅変更に伴い、協会のノウハウを活かしてわかりやすい仕組みを提案していく。</li> <li>・協働事務局として必要な事務・運営を滞りなく進めていく。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでにない形の仕組みになるため、仕組みの構築には十分な配慮が必要であり、募集要項等に盛り込んでいく。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
2021年度に団体助成を開始したり、従業員の推薦を必須とするなど、助成の仕組みが大きく変更された。新たな仕組みを軌道に乗せ、NPOと従業員もしくは事業所との連携を生み出す。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	積水ハウスマッチングプログラム協働事務局
-----	----------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	「積水ハウスマッチングプログラム」2022年度（第17回）助成の協働事務局として、必要な役割を担う。
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働事務局として協会と組んで良かったという評価に結び付ける。</li> <li>・ 新しい助成制度の仕組みを軌道に乗せる。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申請団体数：124件、助成団体数：94件（こども基金57件、環境基金37件）</li> <li>・ 団体助成の導入、従業員の推薦を必須とする等、これまでと大幅に助成の仕組みが変更された。</li> <li>・ 他の助成事務局の経験等から、大幅な仕組み変更に沿った助言・提案を行い、募集要項や申請書の作成、事前の説明会の開催ができた。</li> <li>・ 同じく他の助成事務局の経験から、申請書のメール受け付けを導入するなど、複数の助成事務局を担うメリットを生かすことができた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕組みを変更した初年度を振り返り、より効果的で効率的な助成制度にブラッシュアップさせる。</li> <li>・ 他の助成事務局でのノウハウを生かし、スムーズな運営を行う。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラム事務局		
推進主体	受託事業		
財源	阪急阪神ホールディングス受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	阪急阪神ホールディングス(株)の社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成プログラムの事務局として、阪急阪神沿線で「地域環境づくり」や「次世代の育成」に取り組む市民活動団体への助成を行う。		
事業概要	「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラムの事務局として、助成プログラムの構築、広報、申請書の受け付け、面談の実施、書類審査・本選考の運営、アドバイザー就任等の役割を担う。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪急阪神HD(株)</li> <li>・ 阪急阪神沿線の間接支援団体</li> <li>・ 阪急阪神沿線で活動する市民活動団体（環境、こども支援分野）</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度ごとの運営事務を滞りなく進める。</li> <li>・ 助成プログラムの内容を、より市民活動団体が使いやすくするための助言提案を行う。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
特になし。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成プログラムの内容を、より市民活動団体が使いやすくするための助言提案を行う。</li> <li>・ 助成選考プロセスを通じて、新たな市民活動団体の活動を把握し、P登録制度への参加勧奨も視野に入れ、当協会との関係づくりにつなげる。</li> <li>・ 人件費の値上げを交渉し、段階的に適正な請求額にもっていく。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラム事務局
-----	-----------------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	阪急阪神HD(株)が主催する「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」助成プログラム（第13回団体助成、事業継続助成・3年目）の助成事務局。
アウトプット 目標(指標含む)	・第13回助成プログラム事務局運営 ・継続事業助成プログラム事務局運営

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>第13回助成団体数：</p> <p>部門Ⅰ（50万円助成）12団体（地域環境 9団体、次世代育成 3団体）</p> <p>部門Ⅱ（100万円助成）5団体（地域環境 1団体、次世代育成 4団体）</p> <p>申請団体数：71団体（地域環境 31団体、次世代育成 34団体、不受理 6団体）</p> <p>助成総額：1,100万円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から、データでの申請受付に変更したが、スムーズに移行できた。</li> <li>・今年度の契約事務について、交渉の結果、契約金額の微増が実現した（人件費の改定）。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、助成団体との関係づくりをもっと図っていきたい。</li> <li>・できるだけ事務を効率化し、省力化を図りたい。</li> <li>・引き続き、人件費の改訂（値上げ）について交渉を続ける。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	阪神高速道路 未来へのチャレンジプロジェクト【新規事業】		
推進主体	事務局		
財源	阪神高速道路（株）受託		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	市民団体との協働による社会課題の解決に取り組み、地域・社会の持続的発展及びSDGs達成へ貢献することを目的とする。		
事業概要	「未来へのチャレンジプロジェクト」の事務局として、助成プログラムの構築、広報、申請書の受け付け、選考のサポート等の役割を担う。		
事業の対象	<p>・対象事業：①まちづくり、②環境づくり、③人づくりのテーマ</p> <p>・対象エリア：申請する事業の活動エリアに、阪神高速道路が通過する市町が含まれていること。 ※阪神高速道路が通過する市町は以下の19市町：                  大阪府域・・・大阪市、池田市、豊中市、守口市、東大阪市、松原市、堺市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市                  兵庫県域・・・神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、川西市、伊丹市</p>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の助成金プロジェクトの事務局として、企画運営に携わり依頼企業からの信頼を得る。</li> <li>・賛助企業、リンク会員への勧誘。</li> <li>・第2回以降の継続／拡大と事務局の継続につなげる。</li> <li>・他企業からの依頼拡大に結びつける。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の新規事業のため、丁寧な対応とコミュニケーションを十分に図りながら、成果へ結びつける。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回の助成金プロジェクトの事務局として、企画運営に携わり依頼企業からの信頼を得る。</li> <li>・第2回以降の継続／拡大と事務局の継続につなげる。</li> <li>・他企業からの依頼拡大に結びつける。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	阪神高速道路 未来へのチャレンジプロジェクト【新規事業】
-----	------------------------------

■2021年度の計画

事業計画	「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」第1回助成の事務局として、助成先の決定、プログラムの見直し等を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	・2021年10月の助成金プロジェクトスタートに向けての事務局業の推進。 計画したスケジュールに則り、阪神高速との連携により推進していく。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>市民団体との協働による社会課題の解決に取り組み、地域・社会の持続的発展及びSDGs達成へ貢献することを目的とする。</p> <p>助成金事務局として阪神高速道路（株）との連携で、第1回未来へのチャレンジプロジェクトを計画通りに推進することが出来た。</p> <p>申請事業数：53事業 助成事業数：8事業 助成総額：370万円</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>・第2回の応募時期（3/1（火）～4/20（水））が早くなり期間も短縮となるので早急に準備を始める。</p> <p>・大阪南エリアからの申請団体数が少なかったため、広報強化に努め、応募増を目指したい。</p>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	タケダNPOサポートプログラム（第2期）		
推進主体	企業市民活動推進センター／ボランティア・NPO推進センター		
財源	武田薬品工業からの寄付金		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	関西に拠点を置く保健医療分野の市民活動団体が、長期療養の子どもたちとその家族が直面している課題の解決に向けて、持続性・発展性のある支援ができるよう、広く啓発を行うと同時に、希望する団体に伴走型の支援を行う。（1年目はコロナ禍で表れてきた課題にアプローチすることから始める。）加えて、長期療養の子どもたちへの理解や支援のすそ野を広げることが目的として、長期療養の子どもを対象に自団体が持つ子ども支援プログラムを提供できる市民活動団体の発掘を行い、団体同士のネットワーキングを行うと同時に、協働のきっかけをつくる。		
事業概要	①関西の保健医療分野の市民活動団体、子ども支援プログラムを持つ市民活動団体、長期療養の子どもとその家族を支援している施設・NPOに関する調査とヒアリング／②コロナ禍における長期療養の子どもと家族の支援フォーラムの開催／③（Aコース）コロナ禍における支援力アップに向けたゼミの開催／④（Bコース）長期療養の子どもたちを対象とした支援プログラムの開発セミナー／⑤（Bコース）個別のプログラム開発支援 ※中間報告会、最終報告会を行う。		
事業の対象	関西の保健医療分野の市民活動団体、子ども支援プログラムを持つ市民活動団体、長期療養の子どもとその家族を支援している施設・NPO		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー参加者が、参加型での組織経営や事業運営の効果を理解し、自団体での仕組みづくりの必要性を感じるようになる。</li> <li>・保健医療分野の市民活動団体同士、また他分野で子ども支援プログラムを提供できる団体が連携・協働事例が生まれている。</li> <li>・組織診断を実施した団体が、組織ぐるみで参加型運営に向けた組織基盤整備に着手し、参加型のプログラムを生み出す環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>・保健医療分野以外の団体で、長期療養の子どもとその家族が直面する課題への理解や共感が深まり、子ども支援プログラム開発に取り組む団体が増える。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<p>協会として支援団体の情報を集約できていない。</p> <p>コロナ禍において、プログラム実施のハードルが高くなっている。</p>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業やNPO向けの啓発のためのハンドブックを作成し、長期療養の子どもや家族のニーズや、課題解決のための多様な関わり方を提案する。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	タケダNPOサポートプログラム（第2期）
-----	----------------------

■2021年度の計画

事業計画	関西の保健医療分野の市民活動団体、子ども支援プログラムを持つ市民活動団体、長期療養の子どもとその家族を支援している施設・NPOに関する調査とヒアリングを行い、フォーラムを開催する。
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での支援に関するフォーラム：1回 参加団体数：20団体</li> <li>・コロナ禍での支援力アップにかかるゼミ：3回（Aコース）</li> <li>・プログラム開発セミナー：1回（Bコース）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	2021年度はコロナ禍の影響で進め方などに軌道修正が必要になったため、武田薬品工業との合意形成に注力する形となった。3月17日に開催した第1回ネットワーク会議では、11団体から15人の参加があり、タケダNPOサポートプログラムの進め方についての意見交換等を行った。参加者からは、団体同士の情報共有の時間が有意義だったとのコメントが寄せられた。
次年度への引継ぎ 検討課題	2022年度はハンドブック作成のプロセスで、団体同士のネットワーキングのみならず、個々の団体と密にコミュニケーションをはかり、関係構築を行うと同時に、中間支援組織として現場の団体が必要とするサポートについて、団体と一緒に考えていきたい。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	SAPジャパン(株)との協働による社会的孤立状態になりやすい子どもたちへのIT支援事業の実施		
推進主体	企業市民活動推進センター／ボランティア・NPO推進センター		
財源	SAPジャパンからの寄附		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	SAPジャパン西日本支社のCSRプロジェクトとして、社会的孤立状態になりやすい子どもたちに、社会人との交流や学びの機会を提供し、将来への希望を持つことができるよう、IT支援事業を行う。		
事業概要	①関西で社会的孤立状態になりやすい子どもたちを支援している市民活動団体と連携し、プログラミング教室やキャリア教育プログラムを開催する（3団体） ②①の取り組みに協力するSAPジャパン(株)の従業員を募集し、ボランティアの基礎知識について啓発を行う。		
事業の対象	社会的孤立状態になりやすい子どもおよび支援団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）

- ・プログラムに参加した子どもたちが、これまで経験したことのないプログラムに参加し、社会人との交流をはかることで、新たな知識や気づきを得ることができる。
- ・プログラムにボランティアとして協力したSAPジャパン(株)の従業員が、ボランティア活動をより身近に感じられるようになる。
- ・プログラムにボランティアとして協力したSAPジャパン(株)の従業員が、社会的孤立という社会課題を知り、解決に向けた取り組みへの参加意欲を高めることができる。

事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）

従業員の意識レベルや活動の経験などの情報を持ち得ていない。

中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）

2022年度の取り組みを踏まえ、次年度以降の連携については検討が必要。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	SAPジャパン(株)との協働による社会的孤立状態になりやすい子どもたちへのIT支援事業の実施
-----	--

■2021年度の計画

事業計画	関西で社会的孤立状態になりやすい子どもたちを支援している市民活動団体と連携し、プログラミング教室やキャリア教育プログラムを開催する
アウトプット 目標(指標含む)	子どもを対象としたプログラムの開催：3回 参加者：1回あたり5～10人程度

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	年度中、可能な限り受け入れ団体との調整を続けたが、コロナ禍の影響により、受け入れ団体の環境が整わず、2021年度のプログラム実施は見送ることとなった。
次年度への引継ぎ 検討課題	2022年度、7月頃までに各団体と実施時期等を詰めて、12月までに実施。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム		
推進主体	リンクアップフォーラム幹事会		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	リンク企業、賛助企業の維持拡大 オープンフォーラムの実施／継続		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度テーマ 「コロナ禍で、社会は企業はどう変わる。SDGsの視点から考える」</li> <li>・オープンフォーラムを実施し、企業とNPOの議論の場をつくり、SDGsの円卓会議的なものを推進する。</li> <li>・連携協働企画から生まれた「リンク災害・防災委員会」を継続し、コロナ禍での仕組みや情報共有等を進める。</li> </ul>		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンクアップフォーラム会員（企業・団体 23社・団体）</li> <li>・オープンフォーラム（会員+会員以外の企業・団体も含む）</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間テーマに沿った講師を招き、会員企業の取り組みに繋げる。</li> <li>・オープンフォーラムの定着（リンクアップフォーラムで1回／年間の継続）企業内ボランティア人材の巻き込みも企画</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスの影響もあり、本業の業績の悪化でリンクアップフォーラムを休会、退会される企業が増加。</li> <li>・コロナ禍をチャンスと捉え、オンライン開催のメリットを最大限に活かす。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数の維持拡大（コロナの影響で退会、急化する企業が増加）。新規会員の獲得（会員企業からのお声掛け、企業相談の際に勧誘）。</li> <li>・PCLFオープンフォーラムの企画開催。テーマを設けてNPO／団体に広く声掛けし、企業と一緒に意見交換できるフォーラムを開催し定着を目指す。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム
-----	-------------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021年度テーマ「コロナ禍で、社会は企業はどう変わる。SDGsの視点から考える」に沿った企画運営（リンク幹事会）</li> <li>・オープンフォーラム実施に向けた準備（企画立案、スケジュール化）</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<p>開催回数：年間 6回（1回/2か月）</p> <p>参加者（企業・団体数/人数）：100企業・団体/240人</p>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■リンクアップフォーラム：〔実施回数〕：8回〔114企業・団体数/265人参加〕 予定通り、年間テーマに沿った講師を招き、会員企業の勉強・取組みにつなげた。</li> <li>■オープンフォーラム：12/14火「社会的孤立の抑制・解消～コロナ禍の中での取り組みについて～」。講師：NPO法人ほっとプラス代表理事・藤田孝典さん。NPO（団体）5団体を選出し、活動報告と参加企業との意見交換（現状・課題と改善に向けた協働等について）を実施。（38企業・団体/63人参加） 企業とNPOの協働につながる内容となった。</li> <li>■リンク幹事会：〔実施回数〕：9回〔47企業・団体数/69人参加※インターン3人含む〕</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルスの影響もあり、本業の業績が悪化しリンクアップフォーラムを休会、退会される企業が増加。一方で新規入会を増やす（2022年度よりNTT西日本新規入会）。</li> <li>・オープンフォーラムの定着（リンクアップフォーラムで1回/年間の継続）</li> <li>・オンライン開催のメリットを最大限に活かすことと対面開催の再開を模索する。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	うめきた朝ガク		
推進主体	うめきた朝ガク運営委員会（事務局：当協会）		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	出勤前、通学前等の時間帯に異業種で集い、ソーシャルな課題や話題を広く知り、共有することを目的に開催。		
事業概要	<p>「うめきた朝ガク」は、ソーシャルな課題や話題を広く知り、共有する異業種の交流の場として、第4木曜日午前7時30分から1時間で開催。前半の30分間はゲストスピーカーの話題提供、後半の30分間はグループ討論と全体共有の場で設計。終了後30分間は任意参加の放課後タイムあり。出勤前、通学前等のフレッシュな頭と気持ちで集まり、早朝の1時間を有意義に過ごす機会を提供している。</p> <p>2013年春にオープンした「グランフロント大阪」にて、大阪市北区・梅田周辺で働き、生活する人々とともに、その生活圏である地で新しい社会貢献・地域貢献を創り上げたい…そんな思いで始めたのが“うめきた朝ガク”。コロナ禍を受けて、2020年5月よりオンライン開催に変更し、全国各地からの参加がある。運営は企業のCSR担当・元担当、NPOやソーシャルビジネスに取り組む者・支援する者がマルチステークホルダー型で参画する緩やかなネットワーク体が担っており、協会は運営委員会の代表及び事務局を担っている。</p>		
事業の対象	ソーシャルな課題や話題を広く知りたい市民、特にビジネスパーソンとそのOB、NPOの人など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
ビジネスパーソンにソーシャルな課題や話題を伝え、関心領域を広げ深めることで、ビジネスやプライベートにソーシャルな視点を取り入れられる人を増やす。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスパーソンがソーシャルな課題や話題に触れる機会が少ない。</li> <li>・同じような関心をもつ人と出会う機会が少ない。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
ソーシャルな課題や話題に関心のあるビジネスパーソン年間のべ240人以上、5年でのべ600人以上に、知る・つながる機会を提供する。ビジネスやプライベートにソーシャルな視点を取り入れ、行動する人を増やす。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	うめきた朝ガク
-----	---------

■ 2021年度の計画

事業計画	毎月第4木曜日7:30-8:30 (-9:00放課後タイム) 開催、年12回実施 (第85-96回)
アウトプット 目標(指標含む)	ソーシャルな課題や話題を広く知りたい市民、特にビジネスパーソンとそのOB、NPOの人などを対象に、毎月1回20人以上、年間のべ240人以上の参加者。12人のゲストに話題提供の機会を提供。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	ビジネスパーソンやそのOBがソーシャルな課題や話題を広く知り、共有する異業種の交流の場として、毎月第4木曜日の午前7時30分から1時間、年12回開催。のべ249人（平均20.75人）が参加し交流した。うめきた朝ガクを機に、ビジネスやプライベートにソーシャルな視点を取り入れ、行動する人を一定数増やすことができたといえる。またソーシャルな視点で活動・事業に取り組む12人に話題提供の機会を提供したことで、つながる場を創出できた。
次年度への引継ぎ 検討課題	4-9月の参加者は136人（平均22.7人）、10-3月の参加者は113人（平均18.83人）と参加者が減少傾向にあるため、原因を分析し企画内容への反映を意識的に行う。運営体制等は現状維持で展開する。

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	企業市民活動推進センター（CCC）運営委員会		
推進主体	企業市民活動推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	CCC全体を見渡し、協会の事業間連携と事業収入に繋げる ・今だからこそ企業の社会貢献活動の原点と真価を問う ・委員それぞれが主管する企画の完遂		
事業概要	良き「企業市民」活動の拡大を目指し、企業とNPOセクターとの協働を促進するためのさまざまな事業を通じ、企業の社会価値を高める取り組みをサポートしている。CCCとして、3か月に1回の定例会を持ち、2か月に1回のリンクアップフォーラム、月一回の朝ガク、その他企業市民活動全般に関する方針立案と進捗、課題議論を行っている。		
事業の対象	・企業人全般（現役及びOB）と関連するNPO・団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンクオープンフォーラム（OF）をチャンスに輪を広げられる企画立案（企業×ボランティア、企業×NPO、企業×災害など、協会の強みを生かす）</li> <li>・リンクだけでない個人や企業が参加できる場の提供（OF準備企画チームなど）</li> <li>・ホームページ改良による立ち寄り率の向上と有料相談事業への誘因</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業相談の件数と有料相談へのつながりが不足している。</li> <li>・リンクオープンフォーラム（12/14）からの輪を広げていく。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数の維持拡大（コロナの影響で退会、急化する企業が増加）。</li> <li>・新規会員の獲得（会員企業からのお声掛け、企業相談の際に勧誘）。</li> <li>・PCLFオープンフォーラムの企画開催（テーマを設けてNPO／団体に広く声掛けし、企業と一緒に意見交換できるフォーラムを開催、定着を目指す）。</li> </ul>

事業区分：「企業市民活動推進センター」事業

事業名	企業市民活動推進センター（CCC）運営委員会
-----	------------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）」の開催（偶数月第2火曜）と幹事会の運営</li> <li>・PCLFオープンフォーラムの開催（12月）。テーマを設けてNPO／団体に広く声掛けし、企業と一緒に意見交換できるフォーラムを開催</li> <li>・「はじめてのCSR・社会貢献講座」の開催</li> <li>・「うめきた朝ガク運営委員会」への参画と企画・実施</li> <li>・企業市民活動に関する調査研究の実施（企業とNPOの連携で社会的孤立の解消・SDGsの推進に取り組む）</li> <li>・ホームページ（CCC）の改良</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンフォーラムをチャンスに輪を広げられる企画立案（企業×ボランティア、企業×NPO、企業×災害など、協会の強みを生かす）</li> <li>・リンクだけでなく個人や企業が参加できる場の提供（オープンフォーラム準備企画チームなど）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フィランソロピー・CSRリンクアップフォーラム（PCLF）」の企画開催（偶数月第2火曜）と幹事会の運営：予定通り推進（PCLF6回／幹事会9回）。</li> <li>・オープンフォーラムの企画開催：12/14火実施。「社会的孤立の抑制・解消～コロナ禍の中での取り組みについて～」（38企業・団体／63人参加）。※CCCとしての独自での企画の立案を検討するた実現に至らず。</li> <li>・「はじめてのCSR・社会貢献講座」の開催：1回のみの実施に終わるが、企業からの相談は毎月発生（11回）し、丁寧な対応を実践している。</li> <li>・「うめきた朝ガク運営委員会」への参画と企画・実施：12回</li> <li>・企業市民活動に関する調査研究の実施（企業とNPOの連携で社会的孤立の解消・SDGsの推進に取り組む）：独自企画としての実施には至らず。</li> <li>・ホームページ（CCC）の改良：運営委員会で内容を検討し実現する。今後も随時内容を検討し、改善していく予定。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンクオープンフォーラムをチャンスに輪を広げられる企画（企業×ボランティア、企業×NPO、企業×災害など、協会の強みを生かす）を立案し、リンクアップフォーラムだけでなく、個人や企業が参加できる場の提供を目指す。</li> <li>・ホームページ：委員会の開催時にホームページの評価を行い、改善すべき点は随時実施していく。</li> <li>・「はじめてのCSR・社会貢献講座」の開催：ホームページの改良を機にオンライン化を検討。</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	市民活動総合情報誌「ウォ口」		
推進主体	ウォ口編集委員会		
財源	自主・共募		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	□場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分野・セクターを越えた社会的課題に「市民が主体的に関わることの大切さ」を伝え、適切にオピニオンを発信し、必要不可欠な情報提供を行う。</li> <li>・新しい課題の発見や提言、情報提供を通してボランティア・NPOを一步深め、市民活動を促進して、市民自治と民主主義を成長・発展させることを目指す。</li> </ul>		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回隔月2200部発行。年6冊の年間購読料3300円（送料込）。単品売りは1冊550円（送料込）。手売りは450円。</li> <li>・記事企画、取材執筆、原稿チェック、編集、校正、発送など。</li> <li>・販売、営業など。</li> </ul>		
事業の対象	市民活動の担い手やその関係者など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<p>来年度：奇数月末に著者校正依頼まで完了、偶数月に発送完了のスケジュールを定着させる。</p> <p>2年後：広告営業と単品販売を強化し、定期購読者700件に（今の1.3倍）。</p> <p>3年後：多角化収入増で、協会持出を半減させる（200万円→100万円以下に）</p>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<p>長らく営業・販売を強化できていない現状があり、その第一歩として今年度は偶数月の定期発行を定着させることを目指す。</p>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<p>2021年度決算（予測）では、支出約650万円に対して収入（購読料、広告料）は約356万円。共同募金の配分金180万円を算入しても約120万円の収支不均衡となっている。誌面に対する各方面の評価は高いが、販売部数の拡大が課題。より読者の関心・ニーズに応えるコンテンツを企画し、単品売りを含む販売拡大、関連セミナー開催等のできる限りの収支均衡を目指す。</p>

事業名	市民活動総合情報誌「ウォロ」
-----	----------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集に力を入れる。福祉テーマ2本。講師派遣に生せるテーマ年1本。</li> <li>・特集、トピック、うおろ君などに外部識者の参加を促進する。</li> <li>・編集委員の拡充。取材執筆にあたる外部協力者を5人にする。アゴラ、U35などの小チーム自主運営ケースをつくる。</li> <li>・読者交流、SNS強化、誌面リニューアルを進める。</li> <li>・電子媒体活用の課題を忘れない。</li> <li>・当面の目標として、収支均衡。</li> <li>・広告の営業強化</li> <li>・「ともよび」を継続（2021年12～2022年3月予定）。</li> <li>・単品購入・献本先へのアプローチ（地道なお誘いを編集委員からも事務局からも継続して行う）。</li> <li>・特集やコーナーに関連したイベントやセミナー等の連携企画の立案や、P登録団体など関係団体に特集に関わってもらうなど、ウォロの発行だけに留まらない連携企画を進める。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<p>年間6号を企画し、編集制作して、偶数月に発送する。</p> <p>収支均衡が目標。販売収入2,700,000円、広告収入600,000円、新規購読30件、ばら売り年間250冊</p>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>読者を通じて間接的に社会変革への下支えをしている。21年2・3月号の特集「市民団体の不祥事防止と対策を考える」は、読者層の関心をすくい取った企画で、単品購入を含む多くの反響があった。収支は厳しいが、市民活動のあゆみを記録する役割は果たしている。</p> <p>年間6号の特集テーマは、4・5月号「市民活動のための『法人格研究』」／6・7月号「何を撮り、どう届けるか 動画は市民の道具だ」／8・9月号「コロナ禍の1年半、ボランティアの意味とその支援」／10・11月号「『寄付で参加』を広げよう」／12・1月号「農×市民活動で広がる可能性」／2・3月号「市民団体の不祥事防止と対策を考える」。特集テーマや各コーナーの内容、取材対象などは半年に1回の拡大編集委員会と2カ月1回の定例編集委員会を中心に企画し、編集制作して偶数月に発送する。</p> <p>数字的には、販売収入3,010,260円（目標2,700,000円※年度途中の実績を基にしており、20年度の購読料収入は最終的に約320万円）、広告収入649,000円（目標600,000円）、新規購読21件（目標30件）、ばら売り年間133冊（目標250冊）だった。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>引き続き社会全般や、読者の活動に資するコンテンツ提供を目指す。とりわけ特集テーマは重要で、ウォロをテキストにした関連セミナーの開催、定期購読・単品販売の拡大につなげたい。編集委員長が交代して新体制になることもあり、新たな視点と意欲で、充実した誌面制作を図る。</p> <p>外部要因では、印刷・発送費の値上げなどコスト増を吸収するため、販売価格の値上げが必至となる。次年度に具体的な値上げ幅を検討する。</p>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	出版		
推進主体	事務局 ※「福祉小六法」は編集委員会を設置		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	■理論化
事業目的	他の出版社からは発行されにくいボランティア・市民活動に関するオピニオン等をまとめ、書籍として出版する。販売収入は協会事業の推進のために役立てる。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売、営業。</li> <li>・改訂、増刷、新規発行。</li> <li>・（本来は）協会が実施した事業を総括して冊子としてまとめる。</li> <li>・（本来は）協会が発信すべき内容を書籍として発行する。</li> </ul>		
事業の対象	市民活動関係者など。		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
書籍販売売上をもって協会の収入に貢献する
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
本来は、協会のオピニオンや主張、他社から発行されにくい内容や、協会の事業の成果等を書籍にまとめ、世に出していく必要があるが、その体制が整っていない。また、在庫をうまく活かすこともできていないという現状で、今ある書籍を最大限に活かして販売する必要がある。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉小六法」新たな編集委員を迎える（若返りを目指す）。</li> <li>・「学生のためのボランティア論」改訂版の発行。</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	出版
-----	----

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「福祉小六法」編集委員会体制の見直し</li> <li>・ホームページリニューアル検討（ECサイト関連）</li> <li>・「学生のためのボランティア論」増刷</li> <li>・「ボランティアリズム研究5号」編集着手</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍販売収入300万円（買取書籍、印税を含む）</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年度の書籍販売収入：3,048,903円（内訳：協会発行2,598,879円、買取書籍57,658円、印税ほか392,366円。2020年度実績2,957,349円）。販売冊数2,189冊（2020年度2,395冊）。</li> <li>・ 「福祉小六法2022」の編集（B6版、952ページ、2021年12月15日、中央法規出版より発行）。編集にあたって、中央法規出版と打合せを重ね、編集委員体制の拡充と販売強化を目指すことに。現編集委員の協力により、2人→4人に体制を拡充し、協会発行から中央法規出版発行になった経緯などを改めて確認した。</li> <li>・ 「学生のためのボランティア論」7刷を3,000部増刷。これまで何度も改訂版の話が持ち上がっているが、事務局の体制が追い付かず着手できず、これまでと同様の内容で増刷を行った。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学生のためのボランティア論」改訂版の着手</li> <li>・ 「ボランティアリズム研究」第5号の編集・発行</li> <li>・ 出版ECサイトのリニューアル検討</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	ボランティア・市民活動ライブラリーの管理運営		
推進主体	ボランティア・市民活動ライブラリー運営チーム		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	□創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	□市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	□参加の促進	■理論化
事業目的	2003年12月にライブラリーを開設。これまでの市民活動の歴史的資料を集めて散逸を防ぐとともに、現代の市民活動を記録していき、市民活動の研究基盤となることを目指している。		
事業概要	ライブラリーがもつ資源を活用してもらえるよう、データ化をしたり、蔵書を整理し、内容を充実させる。 ・ボランティア・市民活動に関する書籍、報告書など約5,000冊を所蔵。 ・新聞切り抜きデータ数のべ35,088点（2021年3月31日時点）。		
事業の対象	ボランティア・市民活動に関わる人やその研究者		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
協会事業に携わる人々や市民活動に関心のある人がライブラリーの資料を活用できる。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧が容易ではない新聞切り抜きファイルがまだデータ化されていない。</li> <li>・想定される利用者に対して広報ができていない。</li> <li>・魅力的な資料が十分ではない。</li> <li>・これまでの資金源だった巡基金がなくなったため自主財源が確保されていない（財政難）。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
ライブラリーを維持・整備することで、ボランティア・市民活動の歴史的な資料の散逸を防ぎ、ボランティア・市民活動に関する歴史的資料の集積拠点を旨す。一層の認知度向上をはかり、利用者および図書の貸し出し数を増やす。数値目標は感染症が収束しつつある頃に設定する。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	ボランティア・市民活動ライブラリーの管理運営
-----	------------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウオロの全号の目次を整備し、ウオロのバックナンバーを配架する。</li> <li>・1980年代の新聞切り抜きのデータベースを公開する。</li> <li>・協会のHPのリニューアルと連動したライブラリーチームのページの改訂と広報戦略づくり。</li> <li>・定期的な蔵書整理。</li> <li>・ライブラリーを知ってもらうためのイベント・企画の実施をし、寄付を募る。（コロナが落ち着けば）</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライブラリーの認知度が向上し、利用が増える。図書の貸し出し数が増える。</li> <li>・新聞切り抜きのデータベースを今年度中に公開する。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>2021年度も蔵書整理をボランティアの手で行った。蔵書充実のため85団体に資料の寄贈呼びかけを行ったところ、62点の寄贈があった。市民活動の歴史を語る上で貴重な資料を入手することができた。</p> <p>「ボランティアスタイル」の「ボランティア・市民活動の歴史を学ぶ～新聞記事デジタル化ボランティア～」プログラムをオンラインで2回開催し10人が参加。コロナ禍でも参加できるボランティアプログラムを実施できた。また、就労支援の一貫で受け入れている職場実習生6人に、新聞記事デジタル化の業務に就いてもらってPDF化が進んだ。21年3月31日時点の新聞切り抜きデータ数は1,976点（のべ37,064点）である。</p> <p>なお、21年度に計画したライブラリーの認知向上と利用増進のためのイベントやウオロバックナンバーの配架等の取組みは、コロナ禍が続いたため次年度に持ち越す。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウオロの全号の目次を整備し、ウオロのバックナンバーを配架する」「ライブラリーを知ってもらうためのイベント・企画の実施をし、寄付を募る」は、拠点に人流が戻ってくる頃を見計らい検討再開する。</li> <li>・「新聞切り抜きのデータベースの公開」は年度内に準備が整わず、次年度へ持ち越す（1980年代の公開から）。</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	真如苑Shinjoプロジェクト助成事務局		
推進主体	事務局		
財源	真如苑受託事業		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	協会がこれまで培ってきた助成事業のノウハウを生かしつつ、真如苑、助成先団体の双方にとって良い助成事業として運営できるようサポートをする。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教法人真如苑の社会貢献活動の一つである、「Shinjoプロジェクト」の「多摩地域市民活動公募助成事業」「自立援助ホーム支援助成事業」の事務局を担う。</li> <li>・同法人が助言を得るために組織した「社会貢献アドバイザリー委員会」の事務局を担う。</li> <li>・「市民防災・減災活動助成」の審査員を派遣。</li> </ul>		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教法人真如苑</li> <li>・東京都の多摩地域の市民活動団体</li> <li>・全国の自立援助ホーム</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成事業が滞りなく行えることで、真如苑と助成先団体が相互のパートナーとして多摩地域の活性化や全国の自立援助ホームの状況改善が実現できる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの団体は、報告や相談をしてもらえず、パートナーというよりは、お金をもらうだけというような関係になってしまうことがある。</li> <li>・コロナ禍の影響で、団体の助成事業が実施できないことも多い。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長と連携し、各助成プログラムの助成事務局および「社会貢献アドバイザリー委員会」事務局等を滞りなく運営し、真如苑の信頼を獲得する。</li> <li>・助成プログラムの仕組みをブラッシュアップする。</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	真如苑Shinjoプロジェクト助成事務局
-----	----------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年度助成分の各団体からの実施報告書のとりまとめ。</li> <li>・ 2021年度助成分の審査、助成、相談、報告まとめ「多摩地域市民活動公募助成事業」「自立援助ホーム支援助成事業」。</li> <li>・ 2022年度助成分に向けて検討、助成事務。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成事務をスケジュール通りに、滞りなく進める。</li> <li>・ 助成事務を効率的に、かつ成果が上がるような気づきを真如苑にも提案し、改善を図っていく。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;多摩地域&gt; 申請団体数：I型50件・II型20件、助成団体数：I型41件・II型12件、助成総額：I型7,270,000円・II型4,550,000円</li> <li>・ &lt;自立援助ホーム&gt; 申請団体数：28件、助成団体数：25件、助成総額：7,960,000円</li> <li>・ 自立援助ホーム、多摩地域ともに昨年度より申請件数が減少。コロナ禍における助成金の活用を考えにくくなったことが想定される。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナによる活動のしにくさはだいぶ解消されてきている（コロナと付き合った形での活動実施形態が見えてきている）ので、団体間同士の情報交換や交流ができるような仕組みが整えることも検討する。</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	「日本ボランティア・NPO・市民活動年表」増補・改定版編集・発行事業		
推進主体	ボランティアリズム研究所		
財源	三菱財団、庭野平和財団（2020年度まで）		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	□場づくり	□参加の促進	■理論化
事業目的	編集体制を抜本的に強化する体制を整えて『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』（初版）の増補・改訂作業を進め、刊行。刊行後は「読み解く会」などの開催を進めて広く社会的認知を図り、日本の市民活動の基盤の一つとなることを目指す。		
事業概要	<p>編集体制を抜本的に強化する体制を整え、『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』（初版）の増補・改訂作業を、下記の作業を進める。</p> <p>①『年表』（初版）で扱った年代（概ね2010年頃まで）以後、2020年までの事項の拾い出し</p> <p>②『年表』（初版）の誤りの修正</p> <p>③『年表』（初版）で扱った年代の事項についての再検討（追加と削除）</p> <p>その上で、2021年度中に『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』（増補・改訂版）を刊行する。</p> <p>④「刊行記念の集い」および「読み解く会」の開催</p>		
事業の対象	本取り組みは、現在と将来の活動実践者にその指針を提供することができる。		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
多様な分野を俯瞰した市民活動の歩みを包括的に掲載した「年表」は、民間非営利セクターが独自の歴史と伝統に基づき、現代社会の形成に寄与してきたことを明らかにする。従って年表の刊行は、市民活動の実践者、支援者、研究者にとって、歴史・文化・社会的なインフラ整備と同義である。市民活動に関係する諸機関・団体だけでなく、行政・企業・教育・学術などあらゆる分野でこの年表本が認知・活用され、日本の市民活動を推進することを目指す。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
増補・改定版は2022年3月30日付で発行された。アウトカム目標の前提は実現されたので、今後は22年度を通しての評価となる。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
完成した年表は初版に比べてページ数が大きく増え、極めて充実した内容となった。2022年度には5月に「刊行記念の集い」を東京で開催するほか、項目ごとに「読み解く会」を実施する。他に例を見ない書物だけに、継承すべき日本の「文化インフラ」の一つとして販売面でもPRを図り、デジタル版の出版についても交渉を進める。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	「日本ボランティア・NPO・市民活動年表」増補・改定版編集・発行事業
-----	------------------------------------

■2021年度の計画

事業計画	①編集委員会の組織化、各章編集担当者の選任、編集補助員の組織化、②増補作業A：2010年以降の事績の追記、③改訂作業：「初版」内容の確認と誤りの修正、④増補作業B：「初版」内容への追記と削除、⑤交流研究会の開催、⑥中間報告会の開催、⑦編集委員会による進捗管理、⑧脱稿・校正・発刊、⑨最終報告会の開催
アウトプット 目標(指標含む)	「日本ボランティア・NPO・市民活動年表」増補・改定版編集・発行

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	年度末の3月30日付での刊行となった（明石書店発行、本体価格15,000円＋税）。初版の14項目・760ページから16項目・1,120ページへと文字通り大きく「増補改訂」された。総括はこれからだが内容は充実しており、単なる辞書的・百科事典的な読み物としてだけではない、日本の市民活動を推進する基盤（インフラ）の一つになることが期待される。
次年度への引継ぎ 検討課題	「刊行記念の集い」「読み解く会」の開催などを通じて刊行を広くアピールし、初版からの再購入需要を喚起するとともに、新たな読者の拡大を目指す。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	【行動宣言】 ボランティアリズム研究所・セクター研究会「社会的孤立」		
推進主体	ボランティアリズム研究所		
財源	自主・NHK歳末たすけあい助成金		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	■理論化
事業目的	セクターの重要な課題をテーマに開かれた研究の場を作る。今年度は、社会的孤立に関するこれまでの成果をまとめ提言する。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回の研究会を開き、内容を原稿にして次年度半ばに研究誌を出版する。</li> <li>・社会的孤立の克服に向け、市民セクターの課題を検討する研究チームを形成し、提言する。</li> </ul>		
事業の対象	市民活動実践者、研究者。ならびに一般市民		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
研究会3回実施、提言チーム形成と提言案の作成、次年度出版に値する原稿の作成
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
7月、9月と研究会を実施。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
「市民セクターが挑む、社会的孤立の抑制・解消への道程」をテーマに計16回開催した市民セクター研究会の成果を踏まえ、2022年度に「ボランティアリズム研究」第5号を刊行し、併せて政策動向等を注視しつつ提言作成に注力する。23年度以降は提言及び課題の確認を共有財産としつつ、大阪ボラ協創立60周年（25年）を見据え、次の取り組みを検討し具体化する。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	【行動宣言】 ボランティアリズム研究所・セクター研究会「社会的孤立」
-----	------------------------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	研究会3回実施、提言チーム形成と提言案の作成、次年度出版に値する原稿の作成
アウトプット 目標(指標含む)	研究会3回実施、提言チーム形成と提言案の作成、次年度出版に値する原稿の作成

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	RISTEX助成金は頓挫した。研究会は3回開催。①2021年7/18「社会的孤立と公共政策による対応」（宮本太郎講師、オンラインで計34人参加）②9/18「社会的孤立と地域組織による対応」（後房雄&柏木登起講師、オンラインで計24人参加）③22年3/31第16回「中間支援組織と政策課題」（大西連&実吉威講師、オンラインで計33人参加）は、いずれも充実した内容だった。社会にインパクトを与え得る総括的な提言については、コロナ禍や事務局体制の課題から素材の共有にとどまり、素材の共有にとどまった。次年度の課題。
次年度への引継ぎ 検討課題	コロナ禍で進行が大きく遅れている「ボランティアリズム研究」第5号の進捗確認、原稿の依頼と集稿が緊急課題。提言のまとめと合わせて、できる限り速やかに刊行する。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	ボランティアリズム研究所・調査セミナー		
推進主体	ボランティアリズム研究所		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	■理論化
事業目的	NPO職員を中心とするセクターの担い手の研究力量向上を図る		
事業概要	職員からの要望を踏まえて調整するが、ウォロチーム調査研究の成果共有や、研究誌の読書会等		
事業の対象	NPO支援センタースタッフ		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
現場での知識・経験の蓄積→研究・理論的な裏付けと力量アップ→現場へのフィードバック、という好循環を実現し、個々の成長と同時に市民活動の一層の推進を図る。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
事務局体制等の課題から、具体的な企画実現に至らなかった。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
職員からの要望を踏まえて年間1回開催する。リモート環境の普及により、インターネットを使った調査等の可能性も検討。また市民活動年表の増補・改定版が発行されれば、年表本を「読み解く会」を調査セミナーとして位置づける可能性もある。調整のうえ可能な範囲で実施する。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	ボランティア研究所・調査セミナー
-----	------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	今年度は中止。
アウトプット 目標(指標含む)	2回

年間総括（社会に 与えた影響や実施 プロセスを含む）	なし
次年度への引継ぎ 検討課題	体制を整えて企画案を立てる。

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	ボランティアリズム研究所運営委員会		
推進主体	ボランティアリズム研究所運営委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	■ 市民自治の確立	■ 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■ 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	■ 理論化
事業目的	個人および組織のボランティアリズムの思想・原理に依拠するボランティア活動/市民活動は、21世紀日本社会の平和、民主主義、市民社会のありかたを左右するであろうとの認識と、国際的視野に立ちつつ、日本の市民活動あるいはボランティア活動を支える原理や理念のさらなる追求と、それらの実践的プログラムの開発など理論的科学的な研究を目指す。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民セクターの戦略をセクターの担い手とともに考える「市民セクターの次の10年を考える研究会」の開催</li> <li>・ 市民社会の歴史を可視化する『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』の発行と、付随するセミナー等の開催</li> <li>・ 市民セクター研究会の成果を発信し、セクターの理論的深化を図る「ボランティアリズム研究」の発行など情報発信事業</li> <li>・ NPO職員を中心とするセクターの担い手の研究力量向上を図る「リサーチ&amp;アクションセミナー」研修事業</li> </ul>		
事業の対象	市民セクターを担うNPOスタッフ、研究者などの専門家、学生など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民活動を支える理念の追求と実践的プログラム開発等の理論的科学的研究が行われ、ボラ協からの理論的発信が継続的革新的になされている。</li> <li>・ 幅広い研究者と実践者の協働による研究・調査・発表の場が作られている。</li> <li>・ 以上の帰結として、多くの参加者を得て研究事業が組織され、活動と研究の連携、およびそれぞれの活性化が実現。継続的な研究活動から理論的発信がなされ、市民社会セクターの強化に貢献している。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民活動の水準が停滞している。</li> <li>・ 中間支援組織がNPO法人中心の発想から抜け出ておらず、視野が広がらない。</li> <li>・ アドボカシーや政策提言など市民セクターの自立性を支える活動能力が向上していない。</li> <li>・ 実践と結びついた質の高い研究活動が停滞している。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動現場の実践と研究者の知見との連携を強化し、現場での実践の蓄積が客観的に評価されることを目指す。現場の研究力向上を図り、活動家と研究者による協働研究事業を組織。</li> <li>・ 『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』の内容を広く共有し、活動家向けの研究活動支援を進める。</li> <li>・ 助成金を取ってプロジェクトを進め、物的保証を得つつ実績を作る。</li> </ul>

事業名	ボランティアリズム研究所運営委員会
-----	-------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増補改訂版の市民活動年表を年度内に発刊</li> <li>・市民セクター研究会（第14～16回）の開催</li> <li>・セクター研の成果としての「社会的孤立」に関する提言を作成。前提として提言に向けたセミナー的な「オープン提言作り」を2回開く</li> <li>・「ボランティアリズム研究」第5号を年度内に脱稿し、出版は来年度前期に。発刊後は普及活動をする</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増補改訂版「市民活動年表」は年度内の発刊を目指す。</li> <li>・セクター研は各回30人以上の参加者を獲得</li> <li>・「ボランティアリズム研究」第5号は速やかに原稿の依頼・集稿まで完結し、編集作業に入る。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>実績としては、①セクター研を3回開催（2021年7/18「社会的孤立と公共政策による対応」宮本太郎講師：9/18「社会的孤立と地域組織による対応」後房雄&amp;柏木登起講師：3/31「中間支援組織と政策課題」大西連&amp;実吉威講師）②市民活動年表「増補改訂版」の刊行（3/30付）があり、コロナ禍において評価し得る成果だった。一方、当初実施予定だった、セクター研のアウトプットである「提言」セミナーが年度内に実施できなかった等未達の計画もあった。2021年度事業計画会議では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集まる機会が減ったこともあり、運営委員会の凝集力が減った</li> <li>・提言の作成は、進捗管理をきちんとできなかった</li> <li>・調査セミナーは早い時期に中止を決定。職員のニーズとの調整が重要</li> <li>・担当事務局職員の交代を円滑に行い、事業に支障がでないように運営委員会（委員長）がよりきちんとサポートすべきだったとの分析・総括がなされた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>計画しながら実施に至っていない諸課題の実現と、動き出しつつある事業の円滑な実施。以下が重点となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①セクター研究会11～16回をまとめた「ボランティアリズム研究5号」の発刊</li> <li>②セクター研究会第2幕のテーマ「社会的孤立の抑制・解消」に向けた提言の作成</li> <li>③コロナ禍で販売ができなかった「ボランティアリズム研究」第4号の販促</li> <li>③調査セミナーの開催</li> <li>④増補改訂版・市民活動年表を「読み解く会」の開催</li> </ul>

事業区分：情報提供・出版・市民シンクタンク事業

事業名	“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める事業		
推進主体	“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める会		
財源	自主・NHK歳末たすけあい助成金		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	市民が自分の問題として司法について考え、様々な問題解決に取り組む社会をめざし、市民の、市民による、市民のための司法を実現する。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民目線で裁判員制度などを考え、司法への関心を深める。</li> <li>・司法に市民の力を活かせるよう、場づくりなどを行う。</li> </ul>		
事業の対象	一般市民		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会やセミナー、傍聴カフェ等は、一般市民の参加者数が一定数あること。</li> <li>・裁判員制度の改革にかかる提言は、地方裁判所に意見を届け、検討してもらうこと。</li> <li>・社会への提言は、メディアに取り上げてもらい、広く問題意識が発信されること、など。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判員制度について学ぶことや裁判員経験者の話を聞くことだけでは、一般市民にリーチしにくい。その打開策として、福祉や教育と司法など、市民生活の延長線上に司法をつなげて知る機会をつくる必要がある（成功例；社会的孤立をテーマにした連続セミナー）</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会やセミナー、傍聴カフェ等を通して、市民目線で裁判員制度などを考え、司法への関心を深める人が毎年50人以上、5年で250人以上いる。</li> <li>・司法に市民の力を活かせるよう、場づくりなどを毎年5回以上、5年で25回以上行う。</li> </ul>

事業名	“裁判員ACT”裁判への市民参加を進める事業
-----	------------------------

■2021年度の計画

事業計画	<p>①市民目線で裁判員制度を知り、考える機会をつくり、時に提言も行う（公開学習会の開催）</p> <p>②裁判傍聴を通じて、司法の現況についての認識を深め、時に提言も行う（提言、傍聴カフェ・傍聴カフェオンライン、裁判や司法制度に関する体験記・傍聴記の開催）</p> <p>③身近な題材を通じて、子どもたちの法的なものの考え方を身につける（子ども向け教材開発プロジェクト）</p> <p>④市民の、市民による、市民のための司法を実現する事業を周知し、目的達成の一助とする（ウォロ「傍聴カフェ」連載、ACT通信発行）</p>
アウトプット 目標(指標含む)	市民目線で裁判員制度などを考え、司法への関心を深めたり、司法に市民の力を活かせるような場づくりなどを行ったりして、5回以上の企画で、50人以上の市民にその機会を提供する。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>事業計画①に対し、「オンライン公開学習会」を1回（11/27土）、初めて無料で開催し31人が参加した。福祉や司法関係者だけでなく新しい人や遠方からの参加があり、より多くの人に裁判員制度について関心を持ってもらう機会となった。「経験者の聴き取り」は1回（10/29）、「ミニ学習会」は1回（10/4）行った。</p> <p>事業計画②に対し、裁判員を傍聴する「傍聴カフェ」を計11回開催。9回はスタッフのみで行い、2回（6/8と10/5）はチーム員兼弁護士が同行・解説してのべ3人の一般参加者があった。「傍聴カフェオンライン」は計1回（2/1）開催し、15人が参加した。「市民に開かれた裁判員裁判についての提言」を大阪地方裁判所へ提出した（5/19）。なお、「裁判や司法制度に関する体験記・傍聴記」（第2回）の公募は、コロナ禍の影響をふまえて延期した。「司法ドキュメンタリ鑑賞会」は実施がなかった。</p> <p>事業計画③に対し、「子ども向け教材開発プロジェクト」は体制が整わず検討を休止した。</p> <p>事業計画④に対し、ウォロに「傍聴カフェ裁判からみえる社会」を6回掲載した。参加者のうち希望する者へメール情報「ACT通信」の配信3回と、裁判員ACT公式Facebookを通じた情報提供を行った。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	2021年度の取り組みを踏襲しつつ、コロナ禍で見送った「裁判や司法制度に関する体験記・傍聴記」（第2回）の公募や、体制が整わず一時休止となっている「子ども向け教材開発プロジェクト」の立て直しなどを検討する。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」への参画		
推進主体	ボランティア推進団体会議（民ボラ）世話人会		
財源	自主（参加費）		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	ボランティアを推し進めるため、ボランティア活動推進団体やNPO支援センターのミッションや運営のあり方を考え、諸課題を協議する機会を提供する。		
事業概要	ボランティアを推し進めるための諸課題を全体会や分科会に仕立てて登壇者・参加者で協議する。 年1回、世話人会構成団体が持ち回りで事務局を担当し、事務局のある地を巡回する。コロナ禍では対面とオンラインの併用開催で運営。		
事業の対象	理事、監事、ボランティア、事務局員など、民間非営利団体の組織運営にかかわるすべての人		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
ボランティアを推し進めやすい環境となり、市民セクターが拡充している状態。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
ボランティアは市民セクターに十分浸透していない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
民ボラで、毎年100人以上を集め続けられるか、をボランティアへの関心度の指標とする（協会の独自指標）。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」への参画
-----	-------------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第38回ボランティア推進団体会議（民ボラ）in大阪」の企画運営</li> <li>・「ボランティア推進団体会議（民ボラ）」世話人会への参画</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民ボラin大阪の参加者100人募集</li> <li>・世話人会（年5回程度）への皆勤出席</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>2021年7月3日（土）13時00分-18時20分と7月4日（日）9時00分-12時50分に、「全国ボランティア推進団体会議（通称：民ボラ）in大阪（第38回）～いま、自らに問う、ボランティア」をテーマとして、をオンラインで開催。全国から98人が参加した。基調発題「『同調圧力』を考える－自粛強制の時代、市民の自由をどう拓くか－」に、佐藤直樹さん（九州工業大学名誉教授）を迎えた。分科会1「テーマ：若者のボランティアとワークキャンプ－泊まって語る・体験・体感することがもたらすもの－」、分科会2「災害時にも誰も取り残さないために－中間支援組織の役割を改めて考える－」、アドボカシー「原発避難者の支援の10年と今後の支援－行きづまった支援策と、将来の支援（+アドボカシー）について－」、分科会3「民間とは？民間性を維持する財源とは？－コロナ禍での事例を基に、民間性を支える財源、脅かす財源を考える－」、分科会4「ボランティア再考－ボランティアはネコ？ならば、どうすればマネジメントできるのか？－」、クロージング発題「最後のひとりまであきらめない－支援から取りこぼされる地域、人とともに－」を取り上げ、2日間に渡って、徹底的にボランティアについて論議した。</p> <p>当初は2020年度に開催予定だったが、感染症拡大の影響で実施できず、2021年度に持ち越し2年越しの企画で開催することとなった。オンライン開催かつ期間限定でアーカイブ視聴を可能としたことで、全国から多数の参加者を得ることができた。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>次回開催地（東京）へ、オンライン開催のノウハウを引継ぎ、対面・オンラインのいずれでも質の高い会議を開催できるよう運営体制を整える。</p>

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「関西NPO支援センターネットワーク（KNN）」「近畿圏NPO支援センター連絡会議」「関西NGO協議会」		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	近隣の間援支援組織と平常時はもちろん災害時にもスムーズな情報共有や連携を図ることを目的として、定期的に情報交換を行う。		
事業概要	①各種会議への参加による情報共有 ②メーリングリスト等を通じての情報共有		
事業の対象	関西エリアの間援支援組織		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間援支援組織との情報共有を通じて、最新の市民活動支援について情報を得られている。</li> <li>・ 市町村、都道府県を越える課題について、協働で解決に向けた方策を検討し、必要に応じて共同での取り組みが生まれている。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
団体支援にとどまらず、個別のボランティアマネジメントに関するノウハウが共有できている支援センターはまだ少ない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
間援支援組織に対して、ボランティアコーディネーションの視点やノウハウを共有するとともに、組織の参加型運営の意義についても発信する。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「関西NPO支援センターネットワーク（KNN）」「近畿圏NPO支援センター連絡会議」「関西NGO協議会」
-----	--

■ 2021年度の計画

事業計画	各種会議への参加とメーリングリストを通じて関西の中間支援NPOと情報共有を行う。
アウトプット 目標(指標含む)	・KNN会議への参加：随時

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	2021年度は情報共有のための会議が一度開催されるにとどまった。
次年度への引継ぎ 検討課題	災害時のボランティア活動支援や、情報共有に際しての中間支援組織の役割について、京阪神のNPO支援センターと共有し、実災害に向けた意識を高めていく必要がある。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	近畿ろうきんパートナーシップ制度		
推進主体	ボランティア・NPO推進センター		
財源	近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	地域課題の解決や災害支援活動の充実を目的として、近畿労働金庫と協働体制を構築する。		
事業概要	①連絡会への出席：年3回 ②助成金の申請・報告 ③セミナーの開催		
事業の対象	近畿労働金庫 近畿圏の市民活動団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
・近畿労働金庫との顔の見える関係構築により、平常時はもとより、災害時にもスムーズに支援が行える体制が整っている。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
現時点では具体的な災害時に連携について協議は進められていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
・OSNの共催等を通じて、より具体的な災害時の連携についても議論できる関係構築を進める。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	近畿ろうきんパートナーシップ制度
-----	------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	近畿ろうきんとのパートナーシップに基づき、OSNでの助成金の活用を進める。NPO支援センター連絡会に出席し、近畿ろうきんおよび近畿圏内のNPO支援センターと情報共有を行う。また、2021年度においては、報告セミナーの企画・運営の事務局を担う。
アウトプット 目標(指標含む)	・連絡会への出席：3回 ・セミナーの開催：1回

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	NPO支援センター連絡会には4回参加。セミナーでは運営事務局として当日の進行も担当し、94名の参加があった。当日は立命館大学の桜井教授より、新型コロナウイルス感染症によって現れている社会の変化、特に「つながり」に焦点を当てて、さまざまな切り口で解説をしていただき、様々な立場の参加者と「多様なつながり」の重要性や中間支援の役割について再確認することができた。
次年度への引継ぎ 検討課題	引き続きOSNでの共催を通じた関係構築を行いながら、新たな連携のあり方についても探っていきたい。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）」		
推進主体	災害支援委員会／SUG		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	災害支援をスムーズに行えるよう、多様な関係団体との関係構築と協働を目的として、ネットワーキングに参画する。		
事業概要	①総会・ほか会議への出席 ②（必要に応じて）幹事会への出席 ③災害時の情報共有		
事業の対象	全国の災害支援団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成団体との顔の見える関係を構築し、実災害時にも機能するネットワークとして機能している</li> <li>・災害時にいち早く被災地の情報の受発信ができる状態になっている。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
現状では特になし
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成団体との関係構築</li> </ul>

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「震災がつなぐ全国ネットワーク（震つな）」
-----	-----------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	総会・ほか会議に出席し、災害時の情報共有や防災・減災に関する学習の機会を持つ。
アウトプット 目標(指標含む)	・総会への出席：1回 ・会議への出席：随時案内があり次第出席予定

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	担当者が交代したため、今年度は特に組織の成り立ちや経緯の理解、構成団体との関係構築に注力した。静岡の災支援等での情報は、メーリングリストなどでいち早く得ることができた。
次年度への引継ぎ 検討課題	引き続き、全国の災害支援団体とのつながりを強化し、大阪での実災害時にもスムーズに全国の関係者と連携がとれる仕組みについて考えていきたい。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「3.11 from KANSAI実行委員会」への参画と震災復興応援イベントの企画実施		
推進主体	3.11 from KANSAI実行委員会（事務局：当協会）		
財源	自主（協賛金・寄付金）		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	「おたがいさま」「忘れない」「関西でできること」をテーマに掲げて、2011年度より年に1度開催。東日本大震災の被災地や全国で避難生活を送る方々に思いを寄せ、シンポジウムや写真展などのイベントを通して「関西から何ができるのか」を考えることを目的とする。		
事業概要	東北からゲストを招き「東北のいま」を学ぶほか、熊本地震や西日本豪雨などその後の災害にも目を向け、関西での「日頃の備え」についても議論する機会として開催。		
事業の対象	3.11、東北へ思いを寄せる人、関西での備えを考えている人、など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
「おたがいさま」「忘れない」「関西でできること」をコンセプトに震災復興応援イベントを継続することで、東北へ思いを寄せる人を減らさず、関西での備えを考える人を増やすことを目標とする。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
11年が経過し、風化が進んでいる。 東日本大震災の経験値を関西で生かす機運が減っている。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
震災復興応援イベントで、毎年100人以上を集め続けられるか、を風化をくいとめる指標とする。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「3.11 from KANSAI実行委員会」への参画と震災復興応援イベントの企画実施
-----	---

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2022」の企画運営（2022年3月5日（土）午後、大阪市立大学文化交流センターホールおよびオンライン会場にて開催予定）</li> <li>・「3.11 from KANSAI 実行委員会」の事務局運営</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者100人以上集める。</li> <li>・持続可能な事務局運営を行う。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<p>2022年3月5日（土）13時30分-17時15分に、震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2022 たる・つながる・たしかめる～世代を超えて」を、大阪市立大学文化交流センターホールおよびオンライン会場にて同時開催。72人が参加した。祈り～黙とうの後、テーマ「かたる・つながる・たしかめる～世代を超えて」について、キーノートスピーチ、3本の対談を行い。最後に登壇者全員によるクロストークセッションで会場の意見も交えて話し合った。コロナ禍を踏まえて、対面参加・オンライン参加・アーカイブ視聴参加の三択としたことで、全国から多数の参加者を得ることができた。</p> <p>主催は、3.11 from KANSAI 実行委員会（〔構成団体〕一般財団法人ダイバーシティ研究所／認定NPO法人トウギャザー／NPO法人遠野まごころネット／社会福祉法人大阪ボランティア協会〔事務局〕）。運営協力団体は、おおさか災害支援ネットワーク（OSN）。協賛企業（五十音順）は、近畿労働金庫、産経新聞社、サントリーホールディングス株式会社、Daigasグループ“小さな灯”運動／大阪ガス、大日本住友製薬株式会社、東武トップツアーズ株式会社大阪法人事業部第二営業部の6社にご支援いただいた。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	東日本大震災の風化を抑え、関西での大災害の備えにつなげるべく、震災復興応援イベント「3.11 from KANSAI 2023」の開催につなげる。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「おおさか災害支援ネットワーク（OSN）」の定例会の企画実施 （世話役として参画）		
推進主体	災害支援委員会／SUG		
財源	近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	災害時に大阪府下での災害支援をスムーズに行えることを目的として、平常時からの多様な主体との関係構築ができる場づくりを行う。世話役として定例会と専門部会の企画・運営を行う。		
事業概要	①定例会の企画のための世話役会への参画 ②専門部会「要配慮者部会」「情報部会」の企画・運営（「要配慮者部会」についてはゆめ風基金と協働） ③JVOADおよび全国の災害時中間支援組織との情報共有や連絡調整		
事業の対象	大阪・関西エリアが被災した際に支援に関わる行政、社協、企業、市民活動団体等		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・OSN参加者同士が顔の見える関係を構築し、災害時にも機能するネットワークとなっている</li> <li>・災害時の事務局としての協会が、全国からの外部支援者との連絡・調整の場として機能している</li> <li>・協会が目指すマルチステイクホルダー型の課題解決のプラットフォームの創出につながる</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
災害時にもコーディネーション機関として役割を担える関西エリアのNPO支援センター等と、災害時に向けた情報共有や意見交換がまだまだ進んでいない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元での災害時の初動の動きについて具体化する。</li> <li>・コーディネーション機関として、情報共有会議の持ち方やオンラインコミュニティ等のしくみづくりについて、検討、実践する。</li> </ul>

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	「おおさか災害支援ネットワーク（OSN）」の定例会の企画実施 （世話役として参画）
-----	--

■2021年度の計画

事業計画	①定例会の企画のための世話役会への参画 ②専門部会「要配慮者部会」「情報部会」の企画・運営（「要配慮者部会」についてはゆめ風基金と協働） ③JVOADおよび全国の災害時中間支援組織との情報共有や連絡調整
アウトプット 目標(指標含む)	・世話役会への参画：おおむね月1回程度 ・定例会の開催：2回 ・要配慮者部会の開催：1回 ・情報部会の開催：1回（永井さんメインで企画）

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	世話役会9回、定例会2回に参画。本格的に部会としての動きを始動したが、「配慮者部会」と「情報部会」ともに、定例会での部会開催後、個別の部会としての動きをとるところまで至らなかった。その他JVOAD関連の窓口となって、企業（2社）や府へのヒアリング、コーディネーションガイドラインの会議への出席（6回）等の役割を果たした。
次年度への引継ぎ 検討課題	各部会において、より具体的な災害時の動きについて明確化を進めるとともに、府、府社協との三者連携においても、ボラ協としてコーディネーション力を発揮することが必要であると考えている。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（愛称「OCoNoMiおおさか」；Osaka Co-op/Non-profit Multisectoral Council）		
推進主体	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（OcoNoMiおおさか）幹事会		
財源	自主（構成団体の負担金制で運営）		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	SDGs等の社会的課題への取り組みを連携して進めるために2020年7月に設立。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹事会での定期的な情報交換を行う。</li> <li>・ 年に2回程度の協同企画（7月に協同組合デー、2月にワンワールドフェスティバル）を実施する。</li> <li>・ 構成団体主催の企画にあいのり参画して協同経験を高める。</li> </ul>		
事業の対象	大阪府内の協同組合と大阪府域の非営利団体の組合員や会員など（9団体：大阪府農業協同組合中央会、大阪府漁業協同組合連合会、大阪府森林組合、大阪府生活協同組合連合会、一般社団法人大阪労働者福祉協議会、近畿労働金庫、日本赤十字社大阪府支部、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団関西事業本部、大阪ボランティア協会）。		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;OCoNoMiおおさかとして&gt; 大阪府内の協同組合と非営利団体の連携より、SDGs等の社会的課題の取り組みで社会的に注目をされる成果をあげる。</li> <li>・ &lt;協会として&gt; ボラ協と大阪府内の協同組合・非営利団体との連携で、社会的孤立や災害対応における成果をあげる。</li> </ul>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年4月時点では、相互の信頼関係構築段階である（幹事会での情報交換、構成団体間での事業協力、全員参加での啓発イベント実施など）。</li> </ul>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;OCoNoMiおおさかとして&gt; 大阪府内の協同組合と非営利団体の連携より、SDGs等の社会的課題の解決に資する実例を5つ以上創出する。</li> <li>・ &lt;協会として&gt; ボラ協と大阪府内の協同組合・非営利団体との連携により、社会的孤立や災害対応の課題解決に資する実例を1つ以上創出する。</li> </ul>

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会（愛称「OCoNoMiお おさか」；Osaka Co-op/Non-profit Multisectoral Council）
-----	--

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議：委員会年1回、幹事会年5回程度</li> <li>・協同企画：年2回（7月・2月）</li> <li>・あいのり企画：年数回、各構成団体からのよびかけにより実施</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議に出席し、構成団体およびその業界のトレンドを情報収集する。</li> <li>・協同企画（7月の協同組合デー、2月のワンワールドフェスティバル）を成功させる。</li> <li>・構成団体が呼びかけ合うあいのり企画にできるだけ参画し、協同経験を高める。</li> </ul>

年間総括（社会に 与えた影響や実施 プロセスを含む）	<p>幹事団体として事業運営および組織運営に参画。事業運営面では、「国際協同組合デー &amp; OCoNoMiおおさか1周年講演会」（7/12）の企画実施と「第29回ワン・ワールド・フェスティバル」にオンラインセミナーを企画出展した（2/12土から動画配信開始）。組織運営面では、幹事会6回（4/6、6/2、9/9、10/27、1/13、3/29）に永井が、委員会1回（7/12）に早瀬・永井が出席した。</p>
次年度への引継ぎ 検討課題	<p>協会としての中期目標（ボラ協と大阪府内の協同組合・非営利団体との連携により、社会的孤立や災害対応の課題解決に資する実例を1つ以上創出する）の実現に向けて、具体的な働きかけを構想する。</p>

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	地域こども支援団体連絡会		
推進主体	大阪市地域こども支援ネットワーク事業 事務局 (社会福祉法人) 大阪市社会福祉協議会		
財源	大阪市からの補助金、社会福祉施設・企業からの支援等		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input checked="" type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	こどもに関する課題を「他人事」ではなく、一人ひとりが「我が事」と捉え、地域住民と社協、地域団体、民生委員・児童委員、社会福祉施設、企業・団体などが一体となって、こどもの食や学習の支援を推進する。また、こどもたちが身近に行くことができる居場所づくりを進める「地域こども支援ネットワーク事業」(事務局：大阪市社協)の一環である「活動者や応援者のネットワークづくり」として事業を実施する。		
事業概要	こども支援団体やそれを応援する企業や社会福祉施設、行政や社会福祉協議会などが参加し、こどもの居場所活動に関する情報交換や勉強会を実施(開催日：偶数月の第3金曜日午前10時～正午)。		
事業の対象	こども支援団体、支援団体を応援する企業、社会福祉施設、行政、社会福祉協議会など		

事業のアウトカム目標 (実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定)
大阪市・区、市・区社協、市内のこども支援団体等とのネットワーク構築を図る。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ (目的の達成を阻害しているのはなにか?)
ここで得た情報やネットワークを、当協会事業でさらに活用していきたい。
中期的な目標 (3ヶ年くらいを見据えた) 目標 (具体的な数字で示す)
大阪市・区、市・区社協、市内のこども支援団体等とのネットワーク構築を図り、得た情報やネットワークを、当協会の事業で活用していく。

事業区分：国内外のネットワーク推進事業

事業名	地域こども支援団体連絡会
-----	--------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会への出席（年 6回／偶数月）</li> <li>・連絡会企画会議への出席（年 6回／偶数月、連絡会の1週間後）</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会への出席（年 6回／偶数月）</li> <li>・連絡会企画会議への出席（年 6回／偶数月、連絡会の1週間後）</li> </ul>

年間総括（社会に 与えた影響や実施 プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会への出席（3回／偶数月）</li> <li>・連絡会企画会議への出席（3回／偶数月、連絡会の1週間後）</li> <li>・こども支援関係の団体および行政の施策についての情報収集を行った。</li> <li>・今年度の下半期は事務局体制が脆弱となったので、企画会議とも欠席とさせていただいた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な範囲で関わりを持ち、ネットワーク構築を図っていきたい。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	個人会員・個人賛助会員		
推進主体	事務局・会員		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	□創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	□市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	□場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	協会を支える個人会員・個人賛助会員の制度を維持し、協会に共感し支えてくれる個人の裾野を広げる。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会費の依頼、会員証・領収書の発行</li> <li>・会員誌や関係チラシ等の送付</li> <li>・メーリングリストの維持、運営</li> <li>・個別のやり取りへの対応</li> </ul>		
事業の対象	個人会員・個人賛助会員		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
協会に共感し、支援してくれる人を増やす
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
入会を「誘う」ことができていない
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会の継続的な支援者といえる個人会員・個人賛助会員を600人台まで回復する。</li> <li>・会員に関連する事務作業等を見直す。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	個人会員・個人賛助会員
-----	-------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会費の納入依頼（4月、12月、3月）</li> <li>・速やかな会員証の発行</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規入会40人</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年度の新規入会12人、退会26人</li> <li>・ 定期総会（6/27）：出席者246人（当日参加52人＋委任状提出194人）、同日に開催した記念講演会では、NPO法人自殺対策支援センターライフリンク代表の清水康之さんを講師にお招きし、87人（会員71人、一般16人）の参加があった。</li> <li>・ コロナの影響でオンラインが増え、対面での面談や講座・セミナー等が減ったことも影響し、個人会員のお誘いをしにくい状況が続いた。</li> <li>・ 会費の納入率が非常に低く、会費収入総額が大きく落ち込んだ（300万円の予算に対し約250万円。2020年度と比較して40万円減）。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、関係者で会員でない人には、入会のお誘いをする。</li> <li>・ 会員情報の更新・チェック体制を整備する（ダブルチェックを行う）。</li> <li>・ 会費納入率の低調への対策を検討する。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	会員誌「CANVAS NEWS」		
推進主体	キャンバス・ニュース編集委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員や登録団体に、協会の事業をわかりやすく伝える。</li> <li>・協会をよく知らない人に、協会の魅力を伝える。</li> </ul>		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会会員誌「CANVAS NEWS」の執筆依頼、執筆、編集、校正など。</li> <li>・隔月（年6会）発行。A4サイズ4ページフルカラー。</li> </ul>		
事業の対象	個人会員、個人賛助会員、団体賛助会員、パートナー登録団体、その他協会と出合った人・団体		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
会員など協会を知っている人には協会の事業をより詳しく伝え、協会のことを良く知らない人には協会の魅力を伝える。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
紙媒体としての会員誌の必要性が十分に検討されていない。紙媒体のニーズも一定あるため、当面は現在の形態を継続し、引き続き検討を続ける。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
会員誌ではあるが、会員のみを対象とした冊子ではなく、協会の広報媒体の一つとして、協会のファンを増やす誌面作りを行う。あわせて、協会のこと、チーム・委員会のことを伝えるツールとして活用できるような内容にする。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	会員誌「CANVAS NEWS」
-----	------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の発行</li> <li>・発行後も使える誌面づくりをする（①協会事業をわかりやすく取り上げる、②記録として残せる内容にする、③過去の協会の歴史を取り上げる等）</li> <li>・ホームページに掲載</li> <li>・会員誌の在り方を継続して検討</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<p>今年度前半：活用できる誌面作り&amp;ホームページ発信</p> <p>今年度後半：活用できる誌面作り&amp;SNS発信の検討</p> <p>2年後：会員への情報発信について改めて検討</p> <p>3年後：新たな方法での実施</p>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容：4・5月号（CANVAS谷町最新利用案内）、6・7月号（コロナを機に新しく始めたこと、始めたいことは？）、8・9月号（いつでも参加できる魅力が満載！ボランティアスタイル）、10・11月号（市民活動総合情報誌「ウォロ」ができるまで）、12・1月号（誌面で宴会！）、2・3月号（協会は今後も「人づくり」にこだわります！協会は社会的孤立をテーマにNPOと企業をつなぎます！）。</li> <li>・2021年度から、ホームページから誌面をダウンロードできると同時に、1面掲載のパートナー登録団体へのインタビュー詳細内容を掲載した。</li> <li>・様々な課題に取り組むNPO（パートナー登録団体）のコロナ禍の現状を記事として掲載することができた。</li> <li>・協会の取り組みをわかりやすく紹介したり、会員・アソシエーターに誌面に登場してもらうなど、当初の目的に沿った内容を掲載できた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、発行後も使える誌面づくりを意識して作成する。</li> <li>・発行後の活用を促す取り組みや、掲載したホームページのPR（SNSでの発信等）を行う。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	団体賛助会員・非営利賛助会員		
推進主体	法人コミュニケーションチーム		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input checked="" type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	①財源の維持・強化／②メンバーの拡充／③新たな戦略の検討		
事業概要	<p>①・現在の会員企業・団体と良好な関係を維持し、丁寧なコミュニケーションと、会員企業・団体に関心を持ってもらえそうな協会事業を案内するなど、もっと協会に参加してもらえるような働きかけをする。</p> <p>・リンクアップフォーラム会員で賛助企業ではない企業や、関係する企業・団体に対し、まずは「お願い」をしてお声かけする。</p> <p>②リンクアップフォーラムを始め、これまで関係があり、定年退職を迎える人をリクルートする。 ※2名の増員を目指す。</p> <p>③賛助企業・団体を増やすための新たな戦略・アプローチを検討する。</p>		
事業の対象	<p>・団体賛助会員（営利：43社・団体／非営利：10社・団体）</p> <p>・関連企業（リンクアップフォーラム加盟企業等）</p>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
<p>・協会の財政基盤を支える賛助企業・団体の維持、拡大に努力する。</p> <p>①会員数は現状維持を目指す。具体的な企業名を挙げ、お声掛けは6社を目指す。</p> <p>②企業名を具体的に挙げ、アクションプランを作成し活動に繋げる。</p> <p>③メンバーの拡充。具体的なお名前を挙げ、お声掛けは5人を目指す（2名増員を目指す）。</p> <p>④新たな戦略の検討。戦略会議を行い、できれば実行まで持っていく。賛助会員のメリットを打ち出す（ホームページへのロゴの掲載／オープンフォーラムへの招待等）。</p>
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
<p>・コロナ禍での会員企業の業績不振による脱会の増加と新規会員の獲得が困難な状況。</p> <p>・メンバーの拡充：今年度1名減となり、増員が確保できず厳しい状況。</p>
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<p>・協会の財政基盤を支える賛助企業・団体の維持、拡大に努力する。</p> <p>①会員数は現状維持を目指す。</p> <p>②メンバーの拡充（現状5名→目標7名）</p> <p>③新たな戦略の検討</p>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	団体賛助会員・非営利賛助会員
-----	----------------

■ 2021年度の計画

事業計画	・ 団体賛助会員の支援継続と新たな支援者への働きかけを実施。
アウトプット 目標(指標含む)	・ チーム会議回数：年間 3回 ・ 会員数：現状維持 ・ メンバーの拡充：2名増員

年間総括（社会に 与えた影響や実施 プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4/28 ご支援への感謝と新年度のご挨拶送付（総会記念講演会のご案内）</li> <li>・ 8月下旬から企業訪問を開始できるように準備（特別寄付のお願い作成）</li> <li>・ 会員数の確保：賛助企業：新規2社（2022年度）／退会1社（2022年度1社） → コロナ禍で厳しい状況の中で現状維持を確保する。</li> <li>・ 賛助企業会員：45企業／会費金額：4,510,000円（目標：4,520,000円 99.8%）</li> <li>・ 賛助団体会員：10団体／会費金額：428,000円（目標：428,000円 100%）</li> <li>・ 助成団体：1団体／助成金額：2,500,000円（目標：2,500,000円 100%） 合計 7,438,000円（目標：7,448,000円 99.9%）</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご支援への感謝と新年度のご挨拶（総会記念講演会のご案内）／特別寄付のお願いの継続。</li> <li>・ コロナ禍が続き厳しい状況の中で会員数の現状維持を確保する。</li> <li>※退会が発生することが想定されるが、新規加盟企業を獲得し、維持・拡大を目指す。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	アソシエーター研修およびアソシエーター活性化のための企画実施		
推進主体	アソシエーター活性化委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	アソシエーターに協会の理念が浸透し、チームや委員会の枠を越えた協働が生まれる意識を作り続ける。		
事業概要	協会全体のアソシエーターを活性化するために、アソシエーター研修やアソシエーター歓送迎会など交流会を実施。		
事業の対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会のアソシエーター</li> <li>・協会で活動したいと思っている人</li> </ul>		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）

- ・アソシエーターとしての意欲が高まり、積極的に活動に参加しようとする人が増える。
- ・アソシエーターに協会の理念、参加システムの浸透が進む。
- ・協会で活動するボランティアが増え、さらにはアソシエーターが増えて運営基盤が強固になる。

事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）

- ・コロナ禍で、ボラ協の活動やアソシエーター同士の関係性に変化が生じている。
- ・様々な思いを持って活動をしているが、同じ方向を向いて活動ができていない。チームや委員会の枠を超えた連携が生まれにくい。
- ・コロナ禍の影響もあり、新たにアソシエーターに誘いづらい状況が続いている。

中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）

- ・チーム・委員会を越えた繋がり場の場づくりができてる。
- ・基礎研修の動画化（必要なタイミングで協会の理念や基礎知識を学べる）により、8割のアソシエーターが基礎研修を修了している。
- ・アソ活の取り組みによって、30%のアソシエーターが自身の活動意欲が高まったと答えている。（満足度調査）

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	アソシエーター研修およびアソシエーター活性化のための企画実施
-----	--------------------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アソシエーター基礎研修の実施（「アソシエーターアクションガイド」の活用）※コロナの影響により時期は検討。</li> <li>・アソシエーターが、どのようにして「ボランティアのはじめの第一歩」を踏み出したのかを紹介し、「参加」を慫慂する「ボランティアことはじめ物語～ボランティアはじめの一歩～」を5人分、HPに掲載する。</li> <li>・アソシエーター歓送迎会は、新型コロナの影響を見ながら検討する。</li> <li>・コロナ禍の影響（オンライン化や集まれないなど）をアソシエーターにアンケート等で意識調査する。その結果を受けて、今後の参加のあり方やどのような交流の機会が必要なのかを考える。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アソシエーター基礎研修に対象者の半数が参加。参加した人が、協会の理念を理解し、活動への意欲が増す。</li> <li>・コロナ禍のアソシエーターの活動への課題が明らかになり、その対策を考えられる。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会ホームページでアソシエーターを紹介する「ボランティアことはじめ物語」を新掲載し、活動を始めたエピソードを5人分紹介した（<a href="https://osakavol.org/v-staff.html">https://osakavol.org/v-staff.html</a>）。ボランティアに興味があり、協会ホームページを訪れた人に、はじめの第一歩を踏み出すための背中を押すことになれると考えている。さらにボラ協で活動するアソシエーターが増えることに期待したい。</li> <li>・長引くコロナ禍の状況に適応していくため、2021年12月時点の各チーム・委員会の活動状況を調査。好事例を共有し、水平展開できるようアンケートを実施した。年度内に集約したものを、次年度に結果を共有予定。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎研修の動画制作は、新HPのコンテンツを引用しながら作成するため、時期をずらして実施する。</li> <li>・満足度調査は2年に1度の実施なので行わない。</li> <li>・新HP「ボラ協でボランティアする」のコンテンツ：「ボランティアことはじめ」は新たに6人分を隔月で紹介する。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	寄付（一般、事業、災害）		
推進主体	事務局		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	■参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	協会、および協会の事業に共感して寄附として支援してもらおう。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寄付の依頼</li> <li>・ 領収書、お礼状の発行</li> <li>・ 会員誌等への掲載</li> </ul>		
事業の対象	会員、その他		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
事業指定寄付などで分かりやすく協会の事業を伝え、協会の財政赤字を少しでも改善する。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
寄付のPRが十分にできていない。寄付受領のシステム（事務処理）に改善の余地あり。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
協会の財政赤字改善に貢献できる程度の安定した財源となるよう、事務の見直しやPRを行う。 目標額：毎年、年間500万円。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	寄付（一般、事業、災害）
-----	--------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業寄付の募集：拠点応援寄付、「KVネット」運営寄付、災害時初動対応準備寄付</li> <li>・一般寄付の募集</li> <li>・税額控除指定団体の申請</li> <li>・遺贈寄付ページの作成</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標額：一般寄付350万円、拠点応援寄付100万円、「KVネット」運営寄付5万円、災害時初動対応準備寄付20万円</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年度の寄付実績：6,166,024円</li> <li>・ 内訳：一般寄付3,979,912円（目標350万円・達成）、拠点応援寄付729,800円（目標100万円・未達成）、KVネット運営6,500円（目標5万円・未達成）、その他5,000円、災害寄付1,094,812円（目標20万円・達成）</li> <li>・ 過去5年間の寄付実績をもとに税額控除対象団体の申請を実施（12月）。引き続き対象団体に。</li> <li>・ ホームページリニューアルに伴い、遺贈寄付の紹介をホームページに掲載。詳細の掲載は今後実施予定。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2022年度に募集する事業指定寄付と目標額を明確にし、計画的に呼び掛けるようにする。</li> <li>・ リニューアルしたホームページ、SNS等の活用。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	ホームページリニューアル2021		
推進主体	ホームページ戦略タスクチーム		
財源	自主		
ミッションとの関連	<input type="checkbox"/> 市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input checked="" type="checkbox"/> 参加の促進	<input type="checkbox"/> 理論化
事業目的	協会の事業目標達成に貢献するホームページにリニューアルする。		
事業概要	2020年10月から2022年3月にかけて、協会のホームページを大幅にリニューアルする。		
事業の対象	協会全事業		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
・各事業でHPを含めた事業戦略が考えられていて、その1つとしてWEB戦略が明確になる。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
・現状のホームページでは、すべての事業内容が網羅的に載っていて、利用者にとってわかりにくい。 ・収益につながる動線がわかりにくい。 ・新たな協会への入口として、活動に興味をもってもらえるような仕立てになっていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
当タスクチームは2021年度限定のチームであるため、2022年度以降の持ち方は別途検討。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	ホームページリニューアル2021
-----	------------------

■ 2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページの目的の明確化（各事業への説明、ホームページの役割整理、更新後の運用方法整理）。</li> <li>・ 業者選定、確定。</li> <li>・ サイトマップの作成、各事業の具体的なコンテンツの作成。</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月までに業者選定、確定。</li> <li>・ 10月までにサイトマップの作成、各事業の具体的なコンテンツの作成をする。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	ボランティアスタッフが精力的に中核的な企画、運営を担い、事務局と連携をする、ボラ協らしさを活かしたプロジェクトであった。当初からのタスクであった年度内、3月24日にリニューアルしたウェブページをオープンすることができた。
次年度への引継ぎ 検討課題	2022年度以降は、参加型によるウェブページの情報更新、効果検証などをおこなっていく必要がある。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	協会BCP（事業継続計画）		
推進主体	事務局・災害支援委員会		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	<input type="checkbox"/> 創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	<input type="checkbox"/> 市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	<input type="checkbox"/> 場づくり	<input type="checkbox"/> 参加の促進	■理論化
事業目的	大阪が被災したとき、災害時モードでの事業継続および災害救援活動をすみやかに始動することを目的に、予め意思決定方法や人材と資金の配分計画、情報システム等の整備をBCP計画および災害支援方針に定める。		
事業概要	何があっても持続可能な協会であるために、協会BCPを設定する。協会BCPの策定にあたっては、災害支援委員会と事務局長が連携して行う。		
事業の対象	有給職員、ボランティアアソシエーター		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
何があっても困難をしなやかに乗り切り、協会事業が継続している状態。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
BCPのない現状では、困難への耐性が低いため、事態をしなやかに乗り切ることは難しい状況。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
協会らしいBCPが策定できており、あらゆる角度からのBCP研修や訓練により、困難な状況への耐性が高まっている。市民活動推進拠点のBCPモデルとして注目されている状態をめざす。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	協会BCP（事業継続計画）
-----	---------------

■2021年度の計画

事業計画	コロナ禍を踏まえた協会BCPを見直し、更新する。そして平時から緊急時に備える。
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会BCPの完成と運用開始。</li> <li>・CANVAS谷町の備蓄（水・食料・生活用品を15人3日間分相当）をローリングストックで管理する（災害支援委員会と連携）。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	CANVAS担当者を対象に、避難誘導について意見交換を始めることができた。またCANVAS谷町の備蓄（水・食料・生活用品を15人3日間分相当）のメンテナンスを行い、ローリングストック管理をした。
次年度への引継ぎ 検討課題	コロナ禍における災害支援の課題を踏まえた協会BCPおよび災害支援方針（案）は、災害支援委員会のイニシアチブで取り組む。ただし、協会BCPは総務要素が強いため、災害支援委員会任せにせず事務局も協力する。特に夜間や土日祝は、CANVAS窓口当番のワンオペになることがあり、災害時や緊急時にワンオペで安全確保や避難誘導ができるよう全職員に対するBCP研修と訓練、マニュアルの整備が早急に求められる。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	常任運営委員会		
推進主体	常任運営委員会、常任理事会（会議設計）		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	■創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	■市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	■場づくり	■参加の促進	■理論化
事業目的	理事会の委嘱を受け、その日常的業務（法人業務の決定、資産の管理のほか、協会事業全般にわたって経営管理を行う）を代行し、特に長期的展望にたった事業計画を立案するとともに、経営的視点から対外的な諸問題に対処するために設置。 ※2015年度以降、財務・基金運営委員会（休止中）の機能を吸収		
事業概要	設置目的にもとづき、具体的には、次の業務を行う。 ①事業計画案、予算案の全体調整、②各センター、委員会間の調整、③総会、理事会、事業計画会議、創出会議等の開催準備、④審議委員会の設置と諮問事項の決定、⑤アソシエーター参加システムの運営（発掘と養成・研修など）、⑥職員採用計画、職員の業務分掌計画への同意、⑦理事会から託された緊急案件、対外的案件、その他の重要案件などに対する協議と決定、⑧個人会員の拡大、⑨財務・基金運営委員会の業務（財政計画の骨格の作成、月々の収支状況の確認と対策の協議、活動振興基金の運用管理）、⑩その他		
事業の対象	協会会員、アソシエーター、支援者など		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
感染症拡大や被災などの影響を受けたとしても、持続可能な組織運営ができていく状況。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
2018年度に単年度黒字に転換できたのもつかの間で、2019年度以降の感染症拡大の影響を受けて、財政赤字が続いている。財政面から持続可能な組織運営ができていない。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
2025年度決算までに単年度黒字に戻す。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	常任運営委員会
-----	---------

■2021年度の計画

事業計画	協会事業・財政全般に関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場として、毎月第3火曜日19:00-21:00に対面とオンラインツールの併用による会議を場を設ける。
アウトプット 目標(指標含む)	年12回の会議開催、委員の参加度（出席率・発言率）の向上、質の高い議事運営。

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常任運営委員会：原則として毎月第3火曜日19:00-21:00に対面とオンラインの併用で開催し、年12回行った。協会事業・財政全般に関し、ボランティアスタッフによる日常的な経営協議の場を設けることができた。</li> <li>●創出会議：2021年11月14日（日）10:00-16:30、CANVAS谷町およびZoom開催。24人が参加。セッション1「ボランティアの私の原点」、＜グループワーク1＞若手の意見をきっかけに、世代と経験年数に関わらず「私とボラ協のかかわり」「何を実現したいか」などについて意見交換し、新しい時代にふさわしいボラ協と自らの活動を見直す。セッション2「ボラ協の現状課題に向き合い、ボランティアの新しい輪を広げるには」、＜グループワーク2＞＜グループワーク3＞について協議した。</li> <li>●事業計画会議：2022年3月26日（土）9:00-18:00、CANVAS谷町およびZoom開催。30人が参加（会場参加17・オンライン13）。各チーム・委員会ごとの事業報告と計画を発表し、意見交換を行った。2021年度は資料を1本化し、チームメンバー・委員の紹介、「イチ押し」事業、運営の工夫、来年度に向けた重点ポイントなどを記載する様式に変更した。バズセッションは、協会全体に関わるテーマ、各事業やチーム・委員会に共通する課題などをあらかじめ設定し、議論を深めた。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	委員の参加度（出席率・発言率）の向上、質の高い議事運営を継続する。

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	役員会等（理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事会）		
推進主体	事務局および役員等		
財源	自主		
ミッションとの関連	■市民自治の確立	□創造的に社会を変えようとする人たちの支援と変革の実行	□市民の力が発揮されるための支援
行動宣言との関連	□場づくり	■参加の促進	□理論化
事業目的	社会福祉法人として、法に則った運営を行う。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会：年3回程度開催（6月、10月、3月、その他議題に応じて開催）。</li> <li>・評議員会：年2回程度開催（6月、3月）</li> <li>・評議員選任・解任委員会：評議員の退任・就任があれば開催（年1回程度）。</li> <li>・監事会：年1回開催（5月頃）。前年度の事業運営、決算報告をチェックする。</li> </ul>		
事業の対象	対象は特になし		

事業のアウトカム目標（実現したい状況はどのようなものか、5年先くらいを想定）
・社会福祉関連法、および大阪市の指導に則った適正な運営が行われている。
事業のアウトカム目標と現状のギャップ（目的の達成を阻害しているのはなにか？）
・役員会等の議事録作成が遅れてしまっている。
中期的な目標（3ヶ年くらいを見据えた）目標（具体的な数字で示す）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な運営を継続する。</li> <li>・理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員に、主体的に協会運営に関わってもらうよう促す。</li> </ul>

事業区分：人的な事業推進体制の充実

事業名	役員会等（理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、監事会）
-----	--------------------------------

■2021年度の計画

事業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月：監事会</li> <li>・6月に役員等を改選（理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員）</li> <li>・6月：理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会の開催</li> <li>・3月：理事会、評議員会の開催</li> </ul>
アウトプット 目標(指標含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事・評議員の参加度（出席率・発言率）の向上</li> <li>・質の高い議事運営。</li> </ul>

年間総括（社会に与えた影響や実施プロセスを含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会：第96回（6/8）、第97回（6/24）、第98回（9/1）、第99回（12/2）、第100回（3/2）</li> <li>・評議員会：第81回（6/24）、第82回（3/25）</li> <li>・評議員選任・解任委員会：第6回（6/24）、第7回（11/4）</li> <li>・監事会（5/22）</li> <li>・役員等改選を行う（理事、監事、評議員、評議員選任・解任委員）。</li> <li>・理事は第97回理事会（6/24）から新理事が出席（新任：楠正吉理事、江渕）、評議員は第82回評議員会（3/25）から新評議員が出席（新任：石川久仁子評議員、斉藤誠評議員、村木真紀評議員）。</li> </ul>
次年度への引継ぎ 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、永井・江渕で役員会等の運営を進めているが、役割分担を見直し、役員会運営を含む総務業務を把握するマネージャーを増やす。</li> </ul>